青鞜

参月號

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青韜

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

三月號目次

ソニア・コヴァレフスキィの自傳一……野上彌生子譯
『火の娘』を讀んで（批評）……一七……らいてう
眞をしたひて……（感想）……二五……西崎花世
阿古屋茶屋……（小說）……五〇……國分まさを
あの人……（詩）……七八……原田琴
。美しき獄……（小說）……八四……荒木郁
小鳥よ……（歌）……九八……青木穠

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

林檎（歌）……一〇一……三ヶ島葭子
火事（歌）……一〇五……白雨
古郷にてうたへる（歌）……一〇八……柴田かよ
従妹に（手紙）……一一一……野枝
「婦人解放の悲劇」に就て……一一九……野枝
編輯室より……一二七……
書籍の紹介と批評
青鞜社並に補助團規則

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ソニヤ・コヴァレフスキイの自傳

——野上彌生子譯——

第五章　伯父さんのピョトル・セルゲゼェヴィッチ

ターニャの暖い思ひの的となつたふたりの人は、お父樣の兄さんと、お母樣の一人ッきりの弟でありました。兄さんのピョトル・セルゲゼエヴィッチは、非常に脊の高い立派な老人で、大きな頭には美しい白髮が波打つてをりました。その顏は細かく正しい輪廓を持つて、灰色の毛深い眉に、額には垂直の深い皺が通つてゐますので、優しく正直な、よく小さい子供や、ニューファンドランド種の犬に見るような罪のない二つの眼がなかつたら、殆んど猛々しい位ゐに見えたてありませう。

　ピョトル・セルゲゼエヴィッチは世事に長けた人ではありませんでした。長男でその家族の家長たるべき筈でありましたが、誰も大きな赤ん坊のように取り扱つてゐました。彼は非常に獨創的で、且つ夢想家でありました。妻はもう旣に亡くなつてゐましたから、自分

にはほんの少し計りの手當を殘しておいて、澤山な財産はその一人息子に讓つて仕舞ひました。彼はよくパリビノの弟を訪ねて來ては何週間も逗留いたしました。彼が來るとお祭りのように子供逹に歡迎せられました。而してこの人が居る間は家の中がずつと樂しく愉快になりました。

彼のお氣に入りの部屋は圖書室でありました。終日大きな獸革の寢椅子に座つたまゝ身動きもせず、その愛讀書たる Revue des deux Mondes に讀み耽つてをりました。

全く讀書がたゞ一つの性癖でありました。彼は政治に非常に興味を持つてゐましたから、一週間に一度屆く色んな新聞紙を貪り讀みました。彼はナポレオンのやる新らたな惡事に驚いたり、又ビスマルクの事を非道く心配してやつたりして、幾時間もそんな人逹のことを思ひ廻らしてゐます。ナポレオンは結局獨逸人と衝突して仕舞ふだらうと彼は思つてゐました。彼は一八七〇年(普佛戰爭の年)まで生きてはゐなかつたのでありますが、この自信を抱いて死んだのでありました。

ピョトル・セルゲゼエヴィッチは政治上の事では、恐ろしく殺閥な態度でありました。彼には百萬の軍隊を虐殺する位は何んでもない戯れのように思はれました。色んな罪を罰するのにも議論上では同じように無慈悲でありました。と云つて實生活では彼は凡ての人を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

善良で正直だと思つてゐたのでありました。

彼はよく女教師と小ぜり合ひをしては、印度に於ける英國の知事は、凡て縊り殺されべきものだと云つて冷かしてゐました。『そうだ、そうだ、何奴も彼奴もだ。』と彼は拳で机を叩きながら熱狂して叫びました。こんな瞬間の彼を見たものは、誰でも死ぬほど怖がつたでありませう。けれども自分の烈しい科のために、折から寝椅子の上で居眠りをしてゐたグレーハウンド種のグリシイが目を覺ましたのを見ると、急に靜まり返つて、全く困つたような顔をしてゐました。

けれどもピョトル・セルゲゼエヴィッチの何よりの樂しみは、新らたな科學上の發見を讀むことでありました。彼は晩餐の時にその事を皆んなに話し出します。こんな場合にはその會話は活氣を帶びて來て、非道く挑戰的になることがよくありました。食事の時は大抵他の人は皆んな默つてをりました。と云ふのは、居合はす人々の趣味がまち〳〵でありましたから、何にも話し合ふことがなかつたのでありました。

『ポオル・ベエルの新發見を讀んだかい。』

とピョトル・セルゲゼエヴィッチは尋ねます。而して自分が讀んだその論文の事を話して聞かせますが、その話は事實よりずつと大げさになつて來て、その重要なる事や結果に就て

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

は、發見者の氣儘な夢以上だろうと思はれる程の大膽な結論を致しました。すると盛んな議論が起ります。エレナ・パウロフナとアニウタは大抵ピョトル・セルゲゼエヴィッチの熱心に引き込まれました。女教師は殆んど極りのように反對說でありました。而してピョトル・セルゲゼエヴィッチの辯護してゐる說に對して、罪惡でないまでもそれは間違つた說だと云つて烈しい攻擊を初めました。波蘭土人の先生は旨くその議論の仲間を外づしてはゐましたが、時々は聲を挾んである形式上の細目（デテール）を正してゐました。イヴァン・セルゲゼエヴィチはと云ふと、彼は批評的の懷疑說を述べました。而して中立を保つて、兩陣の弱點を發見したり指摘したりするだけでありました。

時としては議論が非道い戰爭じみたものになることがありました。而して或る不幸なきつかけからきつと詰らない人身攻擊に落ちて來るのであります。最熱心な相手同士はマルヴィナ・ジャコフレエフナとアニウタでありました。この二人は五年の間ずつと睨み合つてゐましてちよい〳〵うはべ計りの平和があるだけでありました。

ピョトル・セルゲゼエヴィッチが單獨の事實から最も大膽な一般の結論を引き出して來ると、女教師は又自分のために巧に反對の論法を用ゐました。最も抽象的な科學上の說を議論する時に、女教師は一寸とでも機會のあり次第アニウタの行爲を非難いたします。而し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

てその說くところは全くびつくりするほど根據のないものでありました。

アニウタも引つ込んではゐませんでした。而して彼女の返答は、女敎師が餘りの腹立しさにテーブルから立ち上つて、こんな侮辱を受けた上はもう早や此家に留まつてはゐられませんと云つた位、毒々しい鐵面皮なものでありました。皆んなが不快な氣持になつて了ひます。エレナ・パウロフナは騷ぎや喧嘩が大嫌ひでありますから、仲裁人になつて色々取りなした末、やつと靜まるのでありました。

ターニヤは Revue des deux Mondes 誌上の二つの論文から起つた大暴風をとりわけ覺えてゐます。一つはヘルムホルツ敎授の『體力の統一』と云ふ論文で、今一つはクロオド・ベルナアルの鳩の頭腦に就いて實驗したものでありました。この二人の博學な敎授達は、ヴィテプスクの片田舍に住んでゐる惡氣のない一露西亞人の家族に、自分等が斯なん論爭の種を投げ込んだのだといふことが分つたから、きつと非常に驚いたでありませう。

ピョトル・セルゲゼエヴィッチは又好んで小說や旅行紀や歷史的の論文を讀みました。子供等の讀物までも涉りました。彼は富裕な露西亞の地主でありますから、自分で一つの圖書館を拵えさへすれば、此罪のない欲望を充たすのは譯もない事だと誰も思つたでありませう。けれども全くは殆んど一冊の書物さへ持つてゐないのでありました。而してパリビ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ノの圖書室はずつと以前から、彼にその好きな仕事に耽ける機會を與へてゐたのであります。

彼はその堂々とした凛々しい風采とはまるで反對に、非常に氣が弱いものですから、いつも他の人からいゝようにせられて、何一つ自分の氣儘に振舞つたことはありませんでした。

斯んな缺點があるためにその兩親は、彼の若い頃には貴族の唯一の似合はしい地位とせられてゐた軍職を、彼には不適當だと思ひました。それで家に引き留めて置くことに極めて、野卑な田舍紳士なみにならない丈けの敎育を授けました。こんな最初の學問以上に彼の持つてゐる智識は、いづれも獨學で得たのでありました。而して多くの獨學者と等しく、ある題目に非常に造詣が深いかと見れば、他の事は非道く不完全だと云ふ風にきれぐの ものでありましたが隨分讀書したのでありました。彼はずつと兩親と共に住んで、少しの恨みも不滿もなくその卑しい位置に甘んじてゐたのであります。

若い悧巧な弟達は優しく、それとなくよく彼に氣をつけてやつて、變り者扱ひにしてゐました。

けれども突然全く思ひもよらぬことが起りました。ナデシュダ・アンドレエゼエフナ・エ

ヌと云ふそこの知事(州)の非常に美しいお金持ちの後取り娘が彼に思ひをかけたのでありました。彼女は彼の容貌に迷つたのか、それとも彼女の從順な可愛い巨人として、いつも足下に置いておき度いような良人には、彼こそお誂へ向きだと見込んだ丈けなのかどうだか分りませんが、彼を自分の良人としようとしてゐると云ふ事をはつきり示しました。

ピョトル・セルゲゼエヴィッチはこんなことは夢にも思はなかつたのでありました。けれども大勢の伯母さんや女兄弟達は、大急ぎで彼にこの不思議な僥倖を知らせました。而して自分にはまだよく譯も分らないうちに、彼は美しくてお金持ちで、且つ我儘育ちのナデシュダ・アンドレエゼエフナと許婚されて仕舞つたのであります。

けれども彼等の結婚生活は幸福ではありませんでした。

パリビノの子供達はピョトル伯父さんは自分達を樂しませて呉れるためばかりにある人だと堅く信じてゐましたのですが、而してその伯父さんのことは何んでも氣儘に話してゐたのでありましたが、たゞ一つ云つてはならないものゝあるのを本能的に感じてをりました。それは伯父さんの亡くなつた妻のことでありました。

子供達は伯母さんのナデシュダ・アンドレエゼエフナに就いて、色んな怖ろしい話を耳に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

いたしました。と云つて兩親や女敎師が話したのではありませんでした。こんな人達は子供達のゐるところでは決してその伯母さんの名は口にしなかつたのであります。けれども一番末の、まだ片附かないでゐる叔母さんのアンナ・セルゲヱフナは、時々お饒舌りをする癖があつて、子供達にその亡くなつた伯母さんの怖ろしい事を話して聞かしたのでありました。

『お前達にはあの女がどんな蛇だか、またマルファ伯母さんや私をどんな目に合はせたかがまだ分りません。ピヨトル兄さんこそお可哀そうだ。あの女に意地められたのだ。あの女がまあ誰が召使ひに腹を立てたとするでせう、するとその部屋へ駈け込んで來て、ピヨトルにその者を罰して吳れと云ふんです。勿論ピヨトルは情け深いからそんな事が出來やしません。よく云つて聞かせようとしますとね、迚も駄目なの、倘と猛り立つてピヨトルと聞いてゐます。おしまひに幾ら口で云つてもピヨトルを怒らせることは出來ないと分かると、新聞紙だろうが書物だろうが、何んでも手當り次第火の中へ投げ込みながら『わたしの家にはそんな老ぼれの屑ツきれはいらない。』つて怒鳴るんです。時によると自分の上靴を投げ出したり耳の上へ箱をぶつつけたりするんですつて。するとまあ情けない、どう

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

でせう。ピヨトルはそつと傷のつかないやうに、あの女の手を捕まうとしながら、出來るだけもの優しく「ナデンカ、一體どうしたのだ。氣をお靜めなさい。こんな事をして恥かしくもないのかい。」と云ふのです。』

『それでも伯母さんは何んとも思はないの。』

『どうして我慢が出來て。なぜ離れようとはしなかつたの。』と子供達は眞つ赤になりながら叫びました。

『でもね、良人となれば古手袋かなんぞのやうにその妻を捨てるわけにも行かないものですよ。』とアンナ・セルゲゼエフナは答へました。

『それにそんな酷いことをされてゐても、ピヨトルはずつと變らずあの女を愛してゐたのですからね。』

『だつてどうして愛せるの、そんなザンティペエ(譯者註、ソクラテスの妻の名)を。』

『兎に角ピヨトルはあの女を愛してゐたのです。あの女なしには生きられなかつたのですわ。みんながあの女を殺ろした時には、自分も一緒に死にさうなほど深く悲しんだのです。』

『何ですつて叔母さん、みんなが殺ろしたのですつて。』と子供達は非常に興奮して尋ねま

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

した。

叔母さんは云ひ過ぎたと思ひましたから突然默つて仕舞ひました。而してもう何んにも云はないと云ふ樣子で頻りと靴下を編みました。

けれども子供達の好奇心は非常に高まつてゐましたから、中々そのまゝでは止みませんでした。

『ねえ話して頂戴よ、叔母さん。』と二人はせがみました。

アンナ・セルゲゼエフナもこれまで云つて仕舞つたのでありますから、多分ずつと續いて話しをしなかつたのでありませう。

『外でもない、あの女の召使ひ達が殺ろして仕舞つたのです。』と出し拔けに答へました。

『まあ怖い。どうしてそんな事をしたの。』

『そりや斯うなのですよ。』とアンナ・セルゲゼエフナはまた話し始めました。『或晩ね、その女はピョオトル伯父さんや子供達を出して仕舞つてたつた一人でゐたことがあつたのです。その小間使ひでお氣に入りのマランガはいつもの通り着物を脫がして、寢床へ連れて行きました。でもその時マランガが三度手を叩くと、それを合圖に他の女中達が、御者のフェードルや、庭師のエヴスチグニエフと共にその部屋へ飛び込んで來たのです。ナデシ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ユダ・アンドレゼエフナは危ないことを見て取りましたが、怖れた色もなければ周章てもしない。「一體何んの事だ、無禮者、氣でも狂つたのかえ。さつさと退つておしまひ。」習慣の威力は强いものでね、みんなたち〴〵となつて引つ込みかけると一番豪者のマランガが押し留めて叫んだのです。「弱虫共。何んて了見なんだえ。怖くはないの。この人が明日の朝私達を西伯利亞へ送るのが分らないかい。」すると皆んな勢付いてその寢床へ飛び上りました。一人がその兩手を捕へると、他の人達は足を押へつけてゐるのです、而して枕だの綿毛だのを積み重ねて窒息させようとしたのです、あの女は聲をあげてどうぞ許して呉れ、助けて呉れるならお金でも何んでもやるつて云ひました。でも駄目でした。召使ひ共は中々その手に乘りはいたしません。お氣に入りのマランガは、皆んなに注意して顔に青い斑點の出ないようにね、その頭に濡れたタウエルを覆らせました。

『後になつて召使ひ共は自分達のした事を白狀して仕舞ひました。而して一部始終の顚末を裁判官へ申立てました。皆んなそれ丈けの罰は受けなければなりません。其人達は笞打たれて西伯利亞へ送られました。その大部分の人はまだ其處で憂目を見ながら生きてゐるのです。』

アンナ叔母さんは言葉を切りました。子供達は怖ろしさに胸を打たれてゐました。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『ね、お父樣やお母樣へ、私がこんな話をしたつてどんな事があつても云つちやなりませんよ。』と彼女は申しました。それと共に子供達もその事は兩親にも女教師にも話さない方がいゝのだと思ひました。でないと怖ろしい事になつて、もう二度と何んにも聞かされなくなるのでありませう。

けれどもターニヤはこの怖ろしい話に惱まされて眠ることが出來ませんでした。

いつか伯父さんを訪ねて行つた時、ターニヤは、コンヴェンショナルな手法で描いたナデシュダ・アンドレエゼエフナの全身像の油繪を見たことがありました。すると今突然この繪が生き〳〵と自分の前に立ちました。――小さい優雅な手足をした此人形のような貴婦人は、まつ赤な天鵞絨の衣を着けて、そのふくやかな白い襟には柘榴石の頸飾をしてゐます。圓い薔薇色の頰、誇らしげな、大きい黑い目、小さい赤い口のまわりの紋切形のほゝ笑。ターニヤは彼女が現在召使つてゐる農奴が、わが身を殺ろしに部屋へ飛び込んで來たのを見たときの目の中の恐怖を、自分の胸に描いて見ました。

ターニヤは伯父さんと二人つきりでゐる時にはこの話がいつも胸にありました。それと共にこの伯父さんがそんな怖ろしい經驗を持つてゐながら、今は何事もなかつたように落着いて愉快にしてゐられるのが、どうしても分りませんでした。彼はターニヤと將棋もさ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

せるし、新聞紙で船を拵へても吳れるし、そうかと思へばその新聞紙に載つてゐる論文に非常に怒つたりもいたします。時々ターニャは伯父さんに口留めされてゐるあの事を話したくて堪らぬような氣がいたします。彼女は一心に伯父さんを見詰めて座りながら、この脊の高い、强い、賢い人が、一人の妻の一寸とした美の前に震えながら、その女が自分の書物だの新聞紙だのを裂いたり、その耳を打たうとして小さい上靴を投げつけたりしてゐるのに、その女の手を接吻しながら、泣いたりしたことを思ひやつて見ようといたしました。一度、たつた一度、どうしても云つて見度くて堪らなくなつたことがありました。

それは夜でありました。彼等は二人つきりで圖書室に居ました。伯父さんは寢椅子に座つていつもの通り書物を讀んでゐました。ターニャは毬をついて遊んでゐました。終にはそれも疲れたので、伯父さんの肩に頭をもたせながら、並んで寢椅子に座りました。而していつものような事を思つてゐました。

ピョトル・セルゲゼエヴィッチは書物を伏せてターニャの髮毛を撫でました。而して『私の小ちやい娘さんは何をそう考へ込んでゐるのだえ。』と優しく申しました。

『伯父さん、あなた伯母さんのことでずいぶんと不仕合せだつたでせうね。』とターニャは殆んど我ともなく云ひ出して仕舞ひました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ターニャはその思ひがけなき問ひが、哀れなピョトル・セルゲゼエヴィッチに及ぼした結果を決して忘れませんでした。彼の靜かな顏は、生理的の苦痛でもあるように縮んでゐました。而して揶られるのを防ぐようにその兩手をさし伸ばしました。ターニャは烈しい憐みと羞恥を感じました。――自分が上靴で彼の耳を打つたような氣がしたのでありました。

『ね、伯父さん、勘忍して頂戴よ。わたし何を云つてたんだか分らなかつたのですわ。』

と彼女は彼に搦みついて、その胸に赤くなつた顏を隱しながら囁きました。而して氣の優しい伯父さんは、その不意な好奇心に就いて、彼女を慰めてやらなければなりませんでした。

勿論ターニャは二度とその事は口にしなくて、他の事を色々と蹯りなく話しました。彼女は伯父さんの特別のお氣に入りになつて仕舞ひました。而して二人で何時間となく話し込んでゐます。伯父さんは何か數學上の考へ事で頭が一杯になつてゐる時には、他の事は何んにも考ふる事も出來なければ話すことも出來ませんでした。而して誰も他に聽き手もありませんので、その抽象的な原理をターニャに說明して、彼女が子供だと云ふことをすつかり忘れてゐました。

けれどもこれは全くターニャも好きだつたのでありました。彼女は一生懸命になつて伯

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

父さんの話す事を了解しようと努めました。でなくも定めて分つた顔付をしようといたしました。

ピョトル・セルゲゼエヴィッチは正しく數學を修めたのではありませんでしたが、非常に深く此科學を重んじてゐましたから、一寸〳〵した智識を集めてゐました。彼は數學の問題を論ずるのが好きで、ターニャの前でよくそれをいたしました。圓を方形にする事に就いて彼女に話して吳れた一番最初の人はこの伯父さんでありました。勿論何んにも分りはしませんでしたが、それでも彼女は熟達するに從つて、進んだ者にも寄りつけない奇蹟の世界を開いて行くような此驚くべき神秘な科學に深く感銘せられてゐました。今一つ寧ろ妙な事情から、數學に趣味を覺えさせるようにしたものがありました。

張り更えをしなければならなくなつてゐた或る部屋の一つの壁に、古い紙の中張りがしてあつて、それに數學の圖按が一杯書いてありました。イヷァン・セルゲゼエヴィッチが若い頃この科學を修めた時からのものでありました。これ等の不可思議な線は直ぐとターニャの好奇心を引きました。彼女は何時間もそれを眺めて立つてゐます。而してその順序を見つけようと思つて、色んな紙と紙を組み合せて見ました。斯うしてだん〴〵と澤山な公式を覺えて來ました。その本文さへその意味は分らぬなりに、彼女の頭の中に印象されたよ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

うであります。

ずつと後年、聖ピエテルブウルで十五の娘として初めて微分學を修めた時、その敎師は彼女が問題を解いたり、覺えたりするのが如何にも早くて以前に稽古したことがあるかと思はれるのを見て喫驚させられました。全くのところそうなのでありました。敎師が說明する瞬間に、長い間彼女の腦髓の何處かの隅に隱されてあつた言葉や公式から、その眞の意義が直ぐ分つたのでありました。

——未完——

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「火の娘」を讀んで――らいてう――

荒木郁子氏の『火の娘』は『火の娘』を卷頭として、外に『春の歌』『道子』『みちしるべ』『死の前』『父』の五篇を含む小説集である。言ふ迄もなく『火の娘』は全頁の過半を占める短篇の長篇で卷中重きをなすものだが、自分は作者の苦心を察しながらもどうも感心出來なかつた。そして寧ろ他の五篇の中に、遙に優れたものゝあるのを思つた。中でも『春の歌』や『道子』などを氏の得意なものとして推奬したい。

女のひとは殊に之れが直接逢つてよく知つてゐる人だとその人の短所や欠點はそつと片付けて置いてよささうな處だけ取上げて言ふのを長い間美德と心得て來たのだから、今氏の作品に對しても其長所美點を氏の前に言ふ人は他に定めて多からうと思ふ。で、私はその方面のことはそれらの多くの氏の知人達に讓ることにして、氏の創作の將來を祝福する心から此處では特にその惡い方面に力を入れて出來る丈忠實に、そして無遠慮に述べることにしたい。作者たる氏が承知して下さるか下さらないかは分らないとしても。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

總じて氏のものには流石に氏だと思はれるやうな才の閃めきがどの作にも見え、『うまいな』とか『氣がきいてるな』とか思はせるやうな部分的箇所が多く、又女らしさもあると同時に他の女流作家の眞似られない特徴もたしかにあるけれど全體として感じる時は、どうも物足りないやうな、不自然なやうな、何處か噓つぱちなやうな、氣まぐれなやうな力弱さを覺えるのは何故であらう。思ふに氏の作品の上に現はれたこの可成り大きな根本的な欠點はやがて氏の人格そのものにありはしないか。氏は東京の眞中で生れ、東京の眞中で育ち、若い中から多くの人に接してきた俗才豐かな賢い婦人である。生れ付き才のない鈍物は只々自分の經驗といふものを賴みとして生きるより外ない處からどんな日常の小さな經驗でも自己の所有として疎にしないけれど、才あるものはとかくその才のみをたのむで自巳の經驗を輕んずる弊があるものだが、氏も亦その一人に洩れないらしい。才をたのむで小說をものする氏に、自己の或經驗に思ひを潛め、その經驗をしつかり把握して、深い內省を經た後それを再現せよなどゝ望むのは、望むのが不明だと笑はれるかも知れないけれど、私は特に氏にむかつて切にそれを望むのである。何故なら氏は小さな空想に生きる何の實生活上の經驗も有たない令孃作家や家庭生活の外何ものも知らない奥樣作家とは違つて、年こそまだ若いけれど樣々な現實に面接して、多くの經驗を有つてゐる婦人なのだ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

から。さういふ婦人作家たる氏であつて、その得難い、貴い、多くの經驗に意味と價値とを與へることをしないで、隨分お粗末にそれを取扱ひ、指の間から滑るがまゝに滑り落さしてゆくやうに思はれるのはいかにも殘念だからである。若し氏がもつと自巳の經驗に重きを置き、それを誠實に表現することに努める人であつたなら、そしていゝ加減な處で才を弄して、所謂藝術化を試みる人でなく、氏が實生活に於て出逢つた事實を事實としてその眞實をそのまゝ卒直に書く人であつたなら氏の作品はもつと價値あるそして深い、大きな力あるものとなつたであらう。私は氏の才がやゝもすればその誠實をくらまさうとするのを惜しまずにはゐられない。

それからこれも自己に對する誠實を欠く處に原因するのだらうが、氏の作物には統一がない。たとへ外部的には、巧にまとまつたものでも內面的に見れば、支離滅裂の感じがして、そゞろに作者自身の內的統一力のないことを忍ばせる。これが緊張の足りないどうも生命の稀薄な力弱いものにさせるのではあるまいか。これは氏に限らず婦人作家によく見る弱點もしくは欠陷だが。

『火の娘』の一篇は以上に擧げたやうな意味の欠點が最も明に現れてゐる處から私は失敗の作だと思ふ。殊にその前半よりもこの後半に於て著しい。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『火の娘』の女主人公光子は何處かヘッダと相通ずるやうな、ちよつと變つた面白い性格の女として描かれてゐるが、どうやら作者自身の半面を見るやうな氣がする。彼女は人妻といふやうな紋切形な生活がいやさに、繼母の勸める結婚を斷つて、地方へ女敎師として行つたが、彼女には元來何の的といふものがない。何のために生きてゐるのか、何をしたらいゝのか分らない。自分の好き嫌ひさへも分らない。自分の心持も希望も分らないやうなこんな人間ならいつそのこと死んだ方がましだと思ふが死ねもしないといふ女である。彼女は淋しがりやで、誰れか相手をこしらへて『悲しむか、笑ふか、泣くか何かしてゐなければ生きてゐられない』。それで若い男を玩具として愛する。そしてその日、その日の快樂を作つて退屈をまぎらしてゐるが、戀に醉つて仕舞ふやうなことは出來ない。時に隨分情熱的な女のやうにも見えるけれど、それは寧ろ弱さに基く、氣まぐれの一種で、その情熱には何の根もない。相手の男があまりにむきになり、その愛が強烈になり。獻身的になると却ていやになる、淺間しくもなる、そしてすぐ「さよなら」をする氣になる。彼女の心は男の熱烈なまた執拗な愛を受け容れるにはあまりに弱いのだ。彼女には其辛棒が出來ないのである。

作者は『死の前』のお里をして『心の弱いものは惡人です。自分の眞個の心も考へることの出來ない、自分の思ふことが分らない人間は惡人です。』と云はせてゐるが、光子の危險

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

性も、その多少病的な好奇心も、女らしい殘忍も皆要するところこの弱さの一面に過ぎない。私には何故がこの言葉が作者自身の感慨を聞くやうで特に、不思議に心に響いて來た。

ともあれ『火の娘』ではかういふ可成り複雜な女性が取扱はれてゐるので、他の婦人作家にはちよつと手のつけられさうもない、又これ迄とても書かれてないやうな女性ではあるが、この作家にも荷か重過ぎたやうだ。何としてもまだ餘程に書き足りない節が多い。その心理を描くことが粗大なため、女の氣持——殊にその時々に變つてゆく女の心のプロセスに呑み込み兼ねる箇所が少くない。わけても後半は結末を急いで、高飛びした跡が著しい。例へば前に戀仲だつた男(清造)が、まだ自分に未練があつて意外にも突然自分の留守宅に訪ねて來られてから、俄に今の戀人(大崎)に對する心持が一變して、夜明けを待つて絶交を乞ひに行き、萬一大崎がそれを承知しない時にはそのまゝ東京へなり、大阪へなり隱れやうと迄思ふあたりの慌しい心の經過が少しも書かれてない。だから讀者の頭にはいかにも唐突で、不自然なものとしか響いて來ない。從つて大崎の變死に出逢つて天に謝したり、我と我が胸を固く抱いて自分の幸福を喜んだりするあたりも、死骸を前にして『傀儡師、胸に掛けたる人形箱、佛出さうと鬼出そと……』と口吟んだといふあたりも只誇張に過ぎたこしらへことのやうで少しも成程と胸に響いて來ない。いやそれは書き足りない

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ばかりではない、あの結末はどうしても作全體の調和を無視し、破壞したものだと思ふ。後半より結末に至る筋の運ばせ方、事件の發展しかたはどこか活動寫眞でも見てゐるやうな處があつて、ために少なからず作の價値を下げたやうだ。殊にあの不思議な、現實ばなれのしたお守袋などを突然出して、それで大崎を殺して仕舞ふなどは作者のいたずらが少し過ぎたやうだ。何もあゝまでして片付けて仕舞はずともよかりさうなものだと思ふ。のみならずあのお守袋は作の興味の中心を分裂させて仕舞つた。そしていよ〳〵不統一な、全體としての効果の薄弱なものにした。若し作者があのお守袋のやうな奇怪な、空想的なことに多大の興味をもつてゐたのなら、あゝいふ取扱ひ方をしないで、お守袋をもつと作の中心興味として、全く別なものを書かれたなら屹度面白いものが出來たのだらうと思ふ。

次に同樣な欠點から失敗に終つた作は『死の前』である。『死の前』の前半は誠に優れたものだが、全體として見る時、お里の死は私にはどうも合點がいかない。何故お里はそれほどの重病に犯されたのか、お里の苦悶が書き足りないから、その死に至る迄の經驗が矢張りいかにも不自然な、こしらへものとしか見えない。

なほその他の作に就いてもそれ〳〵言いたいこともあるけれど、此處では特に欠點あるもののやうに思はれたこの二つを擧げる丈に止めておく。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

最後に『火の娘』一巻を讀み終つた時、私の心におのづから浮んで來た作者その人に就いての想像を記してみたい。(尤もこの書以外の作者に對して有つてゐる私の知識が今同時に働いてゐるのは止むを得ないことだが)。

——彼女の心はいつも不徹底な狀態にある。彼女の生活は分裂してゐる。けれど彼女自身には今までそれを統一する丈の力がない。何故なら彼女の中には不思議なほど反對な要素が常にその間に何の調和も見ずして、個々孤立の姿で共存してゐるから。彼女には思ひ切つて現實的な、物質的な、打算的な方面があるかと思ふと、美に憧れてゐるやうな何處か非現實的な、空想的な方面がある。オリエージタンの中に生きてゐる若々しい女がまだ殘つてゐる。實生活の中に出來上つた放縱な荒んだ心をもつてゐるかと思ふと、基督敎的敎育の影響か。どこかかう處女的な、弱々しいセンチメンタルな處もそのまゝにまだ何處かに殘つてゐる。彼女のする處は何ものにも囚はれてゐないやうで、その頭はまだ因襲を容易に脫しきらない。利他的な心と利己的な心と、惡人と善人とかういつたやうな總て相容れないもののために彼女はそのどちらへも思ひ切つて行き得ない。それで彼女は只その時々の氣まぐれに任せて相對する二つのものの間を右に左に彷徨してゐるのである。この境地から一步上に出ないことには彼女に向つて靈肉の一致した全人的な何ものも望めない

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

——こんなことを私は思はせられた。

それにしてもこの作者の才氣が誠實の上に出ないことを繰返して切望する。

それからこれはつまらぬことのやうだが誤植と誤字の多かつた事と、目次と本文の順序とか相違してゐた事とはちよつと不愉快だつた。

最初から御斷りはしておいたがあまり惡いことばかりを言ひ過ぎたやうな氣がして筆を擱くに當つて何だかおそろしくなつて來た。　（三、二、一七、）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

眞をしたひて―西崎花世―

（此の一文を阿部次郎先生の御手に寄す）

眼が痛くてならない。眼を病むと云ふ事は生れてはじめてのやうな心持がする。私は社を出て一度は家に歸らうとおもつた。然しまた圖書館にゆきたいとおもつた。ゆかうか或はゆくまいか。電車の交叉點のそばを二三回もゆきつかへりつして心を迷はしてゐた。いつそ、そのどちらにも就かずこのまゝ暮れてゆく銀座あたりを歩かうかとも思つた。然し私の心はまた公園の方に歩いた。併し七八間も行つてからこの眼がひどく惡くなつたら、それこそ一日の滿足をもつて十日の悔をあがなふのではないかとおもはれた。行つたり來たりぐる／＼と歩いて足の疲れる程迷つてゐる間に、此の迷ふ事は私の心が乾いてゐるからである事に氣がついた。私の心が乾いてゐる。これはこの眼の痛むことより私に悲しい事である。この心をうるほしてそしてこの眼をいやさねば本當の事ではない。私はさうと氣がついてから再びとは迷はなかつた。私の足は心持よく圖書館の方へ進んでいつた。

ゆきたいところまではこの心がゆけ、それが私の自然の事である。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

○

私の心が相對するものに對して恍惚たる場合がある。吾れを忘れ人を忘れ、すべての周圍するものを忘れて、無我の境に私の心が張りあふれる事がある。自然に對し、人生に對しその他あらゆる周圍のものに對して私のつねに味つてゐるこの恍惚の瞬間はたとへば人が人としての齡の上に天の齡の加入せられる瞬間である。私は私にこの天の齡の加へられる事の多いこと程私の生命の擴がることを覺える。而して私は私の所有するこの種の恍惚の感覺に即して生きる事ほど私に於ける最も高い快樂の在り得ないものであることが思はれる。而して私のよく生きたいと云ふ事、それはこの恍惚の感覺に浴して天の齡の加へられん事の希望の外にあり得ない事が思はれる。

○

多くの人には、――殊に女の人々には――その双眼を持ちその双腕を持つことのやうにその生活に曖昧がありその言葉に不純がありその心の内奥に秘密を持つのであることを私は聞いたやうな心持がする。然らば今私には私の秘密と云ふものがあるであらうか。また

私には今私の矛盾と云ふ事があるであらうか。また私には曖昧があるであらうか。私はそれを靜に思ふ。そして私にはそれが既になくなつたのである事を云ふ事が出來る。それがないと云ふ事はそれを私が征服して來たと云ふ意味である。私は私のこの生活の第一歩をあげる時、まづ私の基點には私の秘密に對して用捨なく挑戰をする覺悟を置いた。私は私の曖昧をゆるさず、私の心の不徹底に生きることをゆるさぬ決心を据えた。私は私のノートの最初の一二年に於ては私に生ずる多くの秘密をその在りのまゝに投げ出す情に耐へられなかつた。私はそのために幾度も泣いたのであつた。然しまたそれを書かずには居られぬ私の正直をもつてやうやうそれを書くことをした。今五年を經た心持でその秘密の事に對つて當時世界中の大闇黒のやうに感じた自分の命をそれを自然の眞理であると解する事が出來てきておもはずゑみをもらしてゐる。それで私は私の經て來た實證に印してたしかに私の思索を云ふ事が出來る。それはすべての人の秘密はそれを秘密とすればする程大きい秘密となるとともに徐々に眞理と遠ざかつてゆく、それを秘密としなければせぬほどそれが秘密とはならずに光によみがへるものである。

心の眼を外に開いて日の鮮かな光に當てることは、それを成し得る力ほど人の命を研ぎいだす力はない。まことに人の力の强弱と云ふ事はこの暗黒に對する打破の外には在り得

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ない。私は私の戰がともあれそれに負けずに來たと云ふ事がたのしまれる。それをたしかに私の爲めにあかしするものは私のノートの持てる文字と、この靈魂のほがらかなる喜びである。私は透明に生きてゐる。

○

無言と云ふ事のあたひは大きい。樹は私たちにその樹の生活の内奥の事を話しはしない。それはその樹の當然の權威である。私は私のこの生活にも眞の意味の權威を有する。私は私を理解し得ない人達に對して何を云ふべきか。私はこの通り無言でゐたい。これが私の當然のことである。外に對して多辯である時、内にむかつては空虛となり、却つて對者に乘じられやう。外に對する沈默は内なるものの伸長を保護する術のすぐれたる術である。無言は心の育つがための絶對の手段である。私はものを云ひたくない。而して私はある人の前には樹木となりたゞある人にのみものを云ふ人間で在り得たい。

○

私は私の言葉の極めて原始的である事をおぼえる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

○

それがたとへ普通の人から自然の事と思はれなくても、私は私の自然の事に對して勇敢に行爲する事ができる。私は私の圍周の人が眼に見ないところに私の自然を見る事が出來る。多くさう云ふ場合に於て、私は私を空想家と云ひ、私を不合理を要求するものであるとして笑ひかつ諫めてくれる。然し私の此の眼に映ずるものは其の一歩前方にある。今不合理なるかの如き曇りを帶びて現れてゐる事に私の眞理を知る事が出來る。それは私が今退けたところの結婚の事が即ちその實例の一である。私は私が現在に於て此の結婚を退ける事が、却つて私の本當の結婚に生き得る所以を知る事が出來る。私は私が今退ける結婚の一歩前方に私の眞の結婚を見徹す事が出來る。この思索は私にとつて自然すぎる程の自然である。これは私の眞理である。

○

眼前の自己(研かれたる自己を指す)に徹する道は一歩前方に於ける世間に合して進む道である。眼前の世間(俗習を指す)に服從する道は一歩前方に於ける自己を滅するとともに

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

あはせて世間と離散する道である。自己か世間か。此の問題の解決ほど人の力の優劣を試みる問題はない。殊にこの問題の實現に於てのみ、人の達觀のかしこさがうかがはれる。私は私が達觀の無い生活を生きる私であるとは思はれぬ事である。

私は結婚を退けた事を惡くは思はない。それは更によき結婚に私が進む事が出來る。

○

私は今ものに醉はされてゐる。私は今ものに魅されてゐる。どうして此のやうな奇異な然し甘くなつかしく柔いこの心境にさまよつて來たのであらう。私は私の事が嬉しく、また恐ろしくなつた。これはどうなる事であらう。

○

私は私を(此の一箇の生物を)眞卒なる心理學者の研究の資料たらしむるだけの覺悟でこれからのノートを造つてゐる。そこに私の世間に對する嚴肅なるつとめを果したいと期する心の滿足がある。私はあくまでも私に對して虛僞のない事を約して生きてゐる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

○

私は眞理の配偶である。私はあなたに愛せられたい。私はあなたの言葉がほしい。私はあなたの胸にふれたい。

○

私は人と爭ふ事をこのまない、ことに私の思想について人と論ずる事を排する。私はそれをこのまないと云ふ事よりもそれをする必要をもたぬのである。それはさうする事よりもよき生きかたに私が生きてゐるからである。

○

すべてのものを包括する而してすべてのものを統一する、此處に眞實なるものがある。それは私である。私は眞實の地上に下りて住むものである。これは私の正當の自覺である私は「眞實」にのみ肯定を所有する。

○ 眞理は極めて卑近に在る。私はそれを知つてゐる。

○ 生きてゆくとは超越してゆく事である。私はそれを知つてゐる。

○ 私の心に健かなる母體である。私はよき姙娠をのぞんでゐる。

○ 私の生きてゆきかたではない。私の死んでゆきかたである。

○ 誰も私の事を案じてはいけない。私は決して案せらるべき位置にはゐぬのである。不安

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

は私の事ではなくして却つてあなたの事に屬する。私は靜に、靜かな土地を歩いてゐる。

○

あの方は俺は持てるものの必然の流出はただ與へる事のある事が漸く心の底からのみこめて來たと云はれてゐる。私にはそれが昔からさう思はれてゐた。あの方の生きてゆきかたは與へる事によつてよく生きてゆく事が出來る。而してあの方の眼の前には、あの方を受け取る箇性が多く現れねばならない。あの方の世界は人を待つてゐる。あの方のあの深みのある男らしい聲であの謙遜な態度とおちついた聲とで、靜に自分に思想を與へてくれた。私の命はあの方の敎への手から燃えはじめた。私の殼はあの方の力によつて破れて自然の生長に進んだ。あの方の大きさが地に現れる事はやがて私の地に噴火する事である。

私を育ててくれた人、私に與へてくれた人、私を生かせてくれた人、私はあの方の事を思ふときにこの手を合せて拜んで生きてゐる。

歸つて來たくなつた時はいつでも歸つておいでなさいとあの方は言葉をのこして置いてくれた。新しい家に新しい客として新しい友情にあなたを迎へてあげませうとあの方は慰めてくれた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

歸つてゆきたい。眞に正しく歸つてゆきたい。然しこの歸りたいと思ふ心はまた張り切らぬとおもはれる。まだ生命を擧げて求めてはゐない。まだ血を動かして生きてはゐない。まだ漲らぬ力である。要するにまだ正しくはないのである。私は先づ正しくなつて、そして正しく歸りたい。

○

外からの力に押されて殊更に作爲すると云ふ事は私をして男たらしめんとする事以上の難儀である。私はかく永久の女性であることと同じく私は永久に內からの力に押し出されて自然にものを造るのである。私は私の聲の私の宇宙から生れるものである事を云ふことが出來る。

○

瀟洒な輕快な美麗な生きてゆき方をする人はありすぎる程多く私の眼の前にある。而して莊重な雄大な地味な生きかたをするものが乏しい。私は私の生きかたを莊重に生きることと雄大に生きる事と、地味に生きる事との世界に發見する事が出來る。私の箇性は瀟洒

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ではない。私の心は輕快ではない。私の言葉は美麗ではない。然し私のかかる箇性も亦宇宙の一つの必要である事をとろこぶ事が出來る。

○

私のこの生活は神性の成立に向つて生きる生活である。生きると云ふ事は超越する事であつて超越すると云ふ事は神性の成立すると云ふ事である。肉から靈に押し進んでゆく私の生命は例へば曙の光の如き世界をのぞんでゐる。太陽が近づいて來ることが感じられる。

○

河井先生からおはがきをいたゞいた。

拜啓至急お話いたしたき事有之、一兩日中に御出で下されたく候、やはり夜の方がよろしく候。とあつた。

○

河井先生の家に昨夕よつた。先生はお留守であつた。私は奥様から先生の私への用談は

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

それが私の結婚の話であると聞いた。その人は生田先生のお宅にいられた人で、二三日前河井先生をたづねて、その事の話に來られたのであると聞いた。その人は年が二十三で、「新潮」に關係のある人のやうな話で、青鞜に出した私の「戀愛及び生活難に對して」と云ふのを讀んで、私の事はよく知つてゐられると云ふ事であつた、

奥樣はあつて話をすゝめて見ますかと云はれた。私は奥樣に、逢ふとしても二十三四の男の人ならばそれは一時の感激にすぎないものとおもはれます。たゞ私が笑つてさう申してゐたと先生に申上げて下さるやうにと賴んで歸つた。

若い男の感激の心持、それは成程美しい。然しそれは戀であつて結婚ではないのが常である。

私は駒場の道を歸りながらいろ〱の事をそれからそれへと思つた。而して此の若い男が現れて私の方に向いてくることはその男の生命そのものには必然の事に相違ない。然し私にはあまりにそれが突然である。突然は不合理の事である。私は私に不合理を加へたくはない。私にとつて不合理である以上は、私はその男の前にその男の命の爲めに杭を打つことは當然私のしなければならぬ事である。私はその男を來させてはならない。それを止める事は私がその男に對する公義(おほやけ)の愛であると思つた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

家に歸つてあかりの下の机に向つてもう一度考へた。そのとき私の心には、あの方の敎へてくれたあの貴い言葉が強く思ひ出されたのであつた。私はその手紙を取り出してよんだ。

併し貴女が獨身でやり通せるだけの自信が十分にあつて、其の上に何か獨身でせひ、やつて見たいと云ふ事業をお持ちでしたら獨身も無論いいでせう。唯獨身と云ふ看板にしばられて戀も結婚もしたくてもする事が出來ないやうな事になるのは徹頭徹尾いけないと思ふだけです。

私はこの深切な敎への言葉の前に心を投げ出して自分をもう一度反省する事をした。私の心は素直だらうか。私はまづそれを思つた。私の心はこの出來事に對して素直でなければならない。あの若い男は河井先生の手を經て素直に私に向いてくる。それに對して私が素直に受け取る事の出來ぬのは私の方に恥をうけとる事である。とにかくに素直にものに與らねばならない。それでなければ、あの方の敎へて下さつた言葉を私が生かせられない。この心を素直にしたい。そして宇宙が私の命に加へやうとするものに面とむかひたい。そしてその取捨はそれからの事に屬する。私はそれが出來ない事はない。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

○

私はゆうべその男が私の方に向いて歩いてくるのは唯その男のみの必然であつて、私にとつては不合理であるがためにその男の前に杭を打ちたいとおもつた。併し今朝の私の心は、あの方の敎へて下された素直に生きてゆかうとする心は、その男が私に現れた事が私にとつてもまた等しく必然である事を發見する事の努力を命ずる。ものが私の眼の前に現れる事に一つとして必然でないものはない。たとへ路傍の石であつても、大空に迷ふ雲の一くづでもそれが悉く私の命に必然を投げてゐる。人は宇宙から、すべて必然のものを加へられる。眼の前のもの一つとして必然性をおびぬものはない。人の生活の矮少と云ふ事は、その必然に對する受感の力、包括の力のまづしさの事ではないか。それはやがて宇宙を盡く必然として自己に取り入れる力の稀薄な人をさして、おろかな人と云ふのではないか。私はおろかになりたくない。私はすべてのものの中から必然を見出したい。それでその男をさけてはならない。私はその男に逢ひたい。すべての事はその後のことである。

○

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

死を切りぬけて生きやうとする爲めに私は女中生活に落ちた、虚僞な浮薄な生きかたを排して私は女中生活に意味を求めた。然るに私のその行爲は單に私を私の物質の死から新しい生に引き上げたばかりではない。私の心の方面に於ける死から新しい生へ私を引き上げてくれた。それを會得する事に私は私の偉大なる眞理を感ずる。これはあの方の敎へてくれた光である。もしもあの時私が女中生活をしなかつたならば、そして虚僞から死に切らなかつたならば、私は私のために國の方から持ち上げられた結婚のために私の心は動搖を來して不甲斐ない思想の敗北を負つて、ただ米飯のためにのみ、あの德嶋のむじなの穴に籠つたに相違ない。あの弟に對する私の愛をすて、此の數年間のノートを捨てて無慘な滅亡をたゞ米飯のためにのみ走つたに相違ない。あの女中生活はその意味に於て私を思想と物質との戰から思想の方に勝を得させた。あの慘苦をきはめた女中の生活は私におけるバプテスマであつた。私は生きたのであつた。私は靈の世界に生きた。而して靈の世界に生きる事によつて却つてたしかに肉の世界を得る道に出た。私は否定する事によつて肯定を得た。この事はあの方が私に敎へてくれたのであつた。私は私の前に今現れやうとする若い男との同棲（かりに事のまとまるものとして）が否定によつて到達しえた私の生活の必然すぎる肯定である事が思はれる。その男にすなほに逢ひたい。それが私の幸福である。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

その男と同棲するものと假定して、私はその男がかう云ふ男であつてほしいと思ふ要求は何もない。私が東京に住むことが出來るのが絶對の感謝である。國の結婚を退けたのもたゞ〳〵根本はそれにすぎない。私は東京にすまねばならぬからである。それは私の弟のために、そして私のノートの爲めの必要である。

○

その男は私に東京を持たせてくれる。私はその人に何の要求もない。僅にさうありたいと思ふ事はその人が私の精神生活（ノート）を理解しやうとする人であつてくれたい事である、けれども強いてさうでなくてもいい。たゞその人が私を浸害しない人であつてくれたい。然しそれも強いてさうでなくてもいい。要するにたゞありのままの人であつていい。私はその人を自己のものとするのである。私はその人を感化するのである。私はその人を同化するのである。私はそのための私の力を所有して生きてゐる。

○

私の心の内面には絶えずはげしく亂れる懊惱と深く沈む恍惚とが一種の旋轉によつてく

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

りかへされる。私の心はその懊惱と恍惚との旋轉のために外にむかつて靜かな無言を保つてゐる。この無言によつて私を他人にいばるものだと云ふ人がある。然し決してさうではない。私が他人に對して樹木のやうな無言でゐる事はそれは決して「他人に對するいばると云ふ事ではない」決して他人を見下すと云ふ事ではない。私は私の内面生活にくりかへされる恍惚と懊惱との旋轉にわづらはされて、外にむかつてこの顏と口とをすべての人に使用する事が出來ない。私は或る人には樹木となりたゞ或る人にのみ人間となつてゐみを作る事が出來る。私の心は私の性質にしたがつて素直に生きやうとする。だれも私を咎める事をゆるさない。

○

その男の年が二十三であつて、私の年が二十七である。この四つと云ふ年齡の差が私に對して何を意味するかと云ふ事を。私は私のために（假りにその事がまとまるとして）說明を得なくてはならなかつた。私は一夜その事をこの心にたくはへて寢た。今朝眼をさまして鮮かな朝の光にあてられながら社に出てくる間に、私はその事の解釋をたしかにこの心に得た。それはかうである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

眞に哲學的に、嚴密なる定義に於て夫婦の生活の眞の狀態は夫の所有する物質的生活と妻の所有する精神的生活との融和渾一に外ならぬことである。而して夫は妻の精神的生活から生きてゆくことが眞實であり、妻は夫の物質的生活から生きてゆくことが眞實である。それが夫婦と云ふものの天地にしたがへる姿でなくてはならないのである。

その眞理が氣がついたとき、私は私のその男に對する精神生活が既に充分に用意せられ、かつその男が私の精神生活を中心として私に向いてゐるのである事を喜ばずにはゐられなかつた。私はその男が年の若いと云ふ事、そして私より世間に觸れないでゐる事、そして私を欲しがつてくるのであると云ふことに限りなき幸福を發見する。

○

宇宙がすべて私の爲に合奏する。私はかぎりなき悅樂に此の身とこの心とを置いて、私の耳に顫音をよせる宇宙のメロディを聞き恍れてゐる。

○

Aの端を押したらBの端が現れた。Bの端を押したらCの端が現れた。Cの端を押した

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

らDの端があらはれた。私は私のこの力の現れを見て面白くてたまらない。

○

神樂坂の本屋で「新潮」を見る。生田春月と云ふ名が眼についた。さう！　この男であつた。何を書いてある事とそのページを開いて讀んでゆく中に其の書いてある事が私の書いたものに對する批評であるのに氣がついた。「人格的評論」と云ふ題にて。それには私の書いたものに對して息もつかずに若々しい感激を述べてあつた。私はそれを讀んでこの若々しい美しさに醉つた。私の可愛いい同解者。この人は好きである。この眞實が好きである。この人が今私の方に向いてゐる。この人は今に私に見えて來る。時が私につれて來てくれるのである。私はそれを待つてゐたい。私の美しくない事と、血まみれで來たと云ふ事と此の二つの事を許して下さるならば、私はあなたの跡について火の中へも水の底へも生きてゆきたい。私はたしかにそれを云ひたい。

○

㊂卓上語と云ふのの中に私の事が書かれてゐる。山出しの女中のやうな醜い女であると云

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ふ事と女は考へる事は不用であると云ふ事と、私は女中よりも醜い。それはたしかにさうである。私は山出しの女中である。(私はセンチメンタルな心をもつてこの事は云つてゐない。私は眞面目な提案として考へるのである）私はあの德島の淋しい村からこの東京に現れてゐる女中である。私は多くの「人生」に仕へる女中である。私は私を女中であると云ふ事を世間の人に知られてほしい。それは私の正しく尊い事である。私の母は百姓の娘である。私の父は百姓の村長であつた。そして私の弟は職工であつて、その他の一人は小僧である。私は私の弟妹に對して私の虛僞の生活を否定した。そして私は女中にいつたのである。私は私が女中でなければ、あの父や母や、あの弟妹にまことにどうしてこの顏があはされやうと思つた。私は私の家庭の中で一番高い敎育を(女學校卒業)受けた。私は私を女學校から出すについて父がどれ程苦勞したかと云ふ事を思ふ時、このあふるる淚の眼を上げてこの手を合せて拜んで生きてゐる。而してその父と母とが私を貧しい中から苦心して敎育してくれた、海よりも亦山よりも大きい恩を思ふにつけて、私は父のなきあとの五人の弟妹に對する私のしなければならぬ事をおもつた。あの兩親への報恩はひとへに弟妹に對する私の犧牲の事である。その事に氣がついた時、私は私を私の家の崩れてゆくのを支へる一つの人柱として、あの弟たちを家のためにも、あのものたちの人としての命のため

にも本當に生きさせたいと云ふ事を誓つた。而して私は五年昔の或る夜、ともすると鈍る心を奮ひ起すために私の髮を斷ち、私の腕の肉をさいて、その血で私の意志を私の母の心に書きのこしてただただ一人で家を出た。それまでは他國に離れた事もなかつた女の身で二百里の旅を此の東京に投げ入れた私の心はひとへに弟妹につくす私の大きい犧牲であつた。

而して私は一年の後に私の足をたしかに踏んでまづ一人の命をこの手に受け取る事をした。今その弟は私の見る眼の前にまことに自然に伸びてゆく若芽のやうに素直に生きてゐて呉れる。私はそれを見て私の力を根において生きる命をたのしんでゐる。私は私の弟たちにまことに生きてゆく道を知らせるには私が先づまことに生きねばならなかつた。二人の弟が人に使はれる時、私は虚僞の生き方が出來なかつた。あれらが人に使はれる時、私も人に使はれて同じ涙の味をなめずには、私はあれらの涙をこの手で拭はれぬ事を思つた。虚僞をすてゝ私は女中であらなければならぬ、それが私の本當の事であると考へて來て私はそれを實現をした、私はことぶき亭で使はれたのである。私は私を山出しの女中と紹介してくれる人に、このまじめなる喜びを見てもらひたい。

そして女に考へさせる事を不用とする人にたしかに眞理を考へてもらひたい。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

○

私はみにくい。然し私は顔のかはりにこの眞實の事を知つた。私は私の美しくないのが苦しい。然し此の苦しみは耻ではない。

○

私は思ふ。生田と云ふその若い男が、その年の若い男が私に向いて來ることを否定するならばそれでいい。それがその男の正當ならばそれが相互の幸福である。その男が來る事も又その男が來ぬ事も、いづれにも私の命は正しく應じて生きてゆく事が出來る。

○

若し結婚をするならば私は私の此の生活をもつてゐる。男はたゞこの中にすはつて生きはじめればいいのである。結婚の費用はたゞ一圓で事が足りる。それはたゞ誓約の酒のあたひの一圓である。眞の生命の結ぶ事は千萬圓の力ではない。私は私の結婚のために他人の金を受けたくはない。たゞ一圓は私の持つてゐる金である。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

○

私は美しくない。而して私は血まみれである。此の美しくない事と此の血まみれである事とに對する私の苦しい自覺は日に日に確かなものとして私の心に根をおろしてくる。而して私は私の美しくない事を恕し、私の血まみれである事を恕する事の出來る人の心を求める力のはげしくなることを感じて來た。この美しくない事を恕し得る人が此の世の中に在り得るかこの血まみれの事を恕し得る心が有り得るか。私は一歩を歩いてはそれを思ひ、二歩を歩いてはその事が思はれる。私は私のみにくき事を恕し、私の心の血まみれの事を恕し得る人に出逢ひたい。而してその人に出逢ひ得た時、私は私の涙を以つて、この事を云ひたい。あなたが私を恕してくれるならば私はあなたの跡について水の底へも火の中へも生きてゆく事が出來る。私はさう云ひたい。その事を云ひたい爲に生きてゐたい。而してその事を云ひたい爲に靜に道を歩きたい。それは私のしなければならぬ事である。それは眞に生きる男をたづねる聲である。然しもしその男が無い場合それは私の苦しみではあつても私の不幸の事ではない。私は私の生命のために斷じて此の事に於ける妥協をゆるさない。私は崇高な生活に生きたい。私は眞を永久にしたひたい。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

○

或る一人の人の後に立つてその人の生活の根となりその人の顏の眼となり、その人の心の花となり、その人の仕事をたすける事によつて自己に生きたい慾望をおぼえる。私は私が眞の妻たらんとする感情が私の心にほのかに柔らかにおとづれて來た事に氣がついた。私は私を生かせ行く人がほしくなつた。私は私の世界を男の中に作つてゆきたくなつた。これは私の僞りではない。

○

私は漸く人となつた。私はたしかな決心をもつてまことに人の妻となりたくなつた。

○

妻は夫より怜悧でなければならぬ。それでなければ夫に仕へる事は出來ぬと思はれる。妻は夫より博學でなければならぬ、それでなければ夫の仕事は助けられぬとおもはれる。妻は夫より高潔であり眞實でなければならぬ、それでなければ、どうして夫を生かせ得や

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

う。私は切にその事の眞理をおぼえる。女は男より進んでゐなければならないとおもはれる。

○

私の胸に光がやどるならば、その光りは多くの人に見せねばならぬ光である。

（大正三、二、七）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

阿古屋茶屋——國分まさを——

靑木と會ふ約束の時刻にはまだ二時間以上あるのを俊子は如何にもそはそはしい容子を見せて親戚の家を辭した。

全くあの京都固有の長々しい挨拶や空虛なお世辭で陰氣な廣い室に坐り込んで因襲的な談話を交す位い俊子にとつて嫌な事はなかつた。で阿兄の前や、蒼白い顏をしてゐる阿兄の養母の眼を偸んでまだ種々御馳走をするからと諄々しく引停める嫂の執念はうるさい、お世辭を聞き流す樣にして俊子は其處を逃げて出た。今一度改めて時計を見ると六時と約束した其間が二時間あまりある。大きな古い家並の靜かな富小路を三條通りの方へと小急ぎ足で歩いて行つた。俊子は其可なり長い時間を詮方なく京極邊りで費して仕舞ふ考へだつたのだ。

ぱか〳〵と風の生溫かい京都の春の午後はもう夕べに近づきながら其深い片かげを一層花曇りで暗くした。西と東とから落ち合つて一方ロへ押しなだれ入る此京極のだら〳〵坂

を俊子は力走りに辷り下りた。偏つて往く人も可なりあつたが、みな四條から鴨東の方へそして祇園の櫻へと目指してゐる人足は次第々々に繁くなつた。

俊子は小町ずしだのおたふくやの門先きだのをそつと立止つて偸み見ながら消えぐな記憶の底から十年以前の可懐しさを手繰り出さうとした。けれども其頃から見ると悉り町の容子から行き交ふ人まで色彩まで打變つて仕舞つてゐる。六角の突き當りには惠比壽座があつたり、高等小間物屋の富士が相變らず大西白牡丹式の店飾りを施して往き來の婦人の眼を惹いてゐるなどは幾らか其當時の面影を宿してゐた。東京などから見ると小淸楚りとしてゐる落語やいろものゝ席は、花と都踊りとに觀客を奪はれて人足の多いのに似合ず小寂しく森閑としてゐる。

一通り京極のあちこちを見歩いて四條へ出ると俊子はまだ物足らぬ心地に促がされて又元の方へ群衆に混つて引返した。此度は活動寫眞などの並び競ふ第二京極の方へ歩を向けて新開の驚く可き喧囂な町合ひに這入つて行つた。けれども夫れは全く徒勞な事だつた。俗惡濃厚な色彩と低級な騷々しい樂隊の囃しに群がり募る人々は驚異の看板に眼を瞠つて犇めき合ふ。其容子はまるで淺草の白晝の姿と異る處はなかつた。眞の意味の京人士の生活らしい處はまるで其處には嗅げなかつた。俊子は急いで知り拔いた其邊りの横町を幾つ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

か曲つて四條通りのお旅町まで突き拔けた。而してほつと息を次ぎながら又ぶら〳〵と靜かに並ぶ軒間を歩いて小橋、大橋と通りすぎた。幾度も幾度も來る電車は花見の客を滿載して嵐の樣な音を立てゝ流れ去る。俊子は疲れを覺えながらなほ時間潰しに淸水燒だの粟田燒だの、それに骨董品の溢く陳んだ店頭に立つと凝乎足を止めて眺めてゐた。

故天才畫家の愛妾だつた高田礎の開いて置いた燒物店は未だ其儘の姿で殘つてゐる。俊子は亡夫と京都に暮してゐた頃よく此店へ來たものだつた。其頃の電車も敷けてゐなかつた祇園町通りは萬亭も此通りの方に向いてゐたし、井筒もあつた樣に覺えてゐる。萬てが流れ失はれても、然し何處となく他の都會には窺ふ事のならない空薫のかほる樣な仄かな燻ぶつた匂は斯う新しく粧ひかけて來た京都の底にひそみ咽んでゐるかのやうに思ひなされた。俊子は土產としてゞも欲しいと思ふいろ〳〵なものも東京へ歸る頃まで忍ぶつもりで見捨てる樣に好きな店々を通り過ぎていよ〳〵石段下まで來た。けれども八坂神社まで詣る氣にはなれなかつた。で電車と共に安井の方角へ折れ曲つて、更らに平井病院の前を登りつめて淸水坂の方へと歩を急がせた。足もかなり疲れて來るし咽喉も渴く、何處となく身內に薄ら汗をかいてゐるやうだつた。今少し早い時間に戀人と約束して置けばよかつたのに、あまりに阿兄の家を簡單に濟ませたからと悔ゐながら遂々高臺寺の北門まで這入

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

つて行つた。春ながら其邊りの靜閑かさ。深い山蔭と高大な寺院の屋根に包み籠められて已う其處では悉り黄昏れてゐるやう。水色してゐた天空は薄紫の夕靄にかき亂されて一層光線はどんよりと暗んでゐる。ろく〳〵は已う店を閉じかけた。夫れから少し行くと清水燒の人形はまるで一軒置きに店を張つて青だの紅だのゝ可憐な色彩を放つてゐる。

已う阿古屋茶屋は直ぐ其處だ。と俊子は思つただけでも動悸は高まつた。あの清水の南園あたりでかき暮らして來た樣な花見歸りの人達は其狹い丹寧坂を群がり降りて來るのである。俊子は夫等の人々から怪冴らしい視線を向けらるゝが嫌さにあの自樂居の前の方から來ればよかつたのにと幾度か逡巡として見た。けれども其阿古屋の裏門は忍び入る客を待つものゝ樣に斜めに杉戸を開けて、其間から庭樹の繁みなどが見透かされる。俊子は可懷しい樣な堪へ難い氣になつて飛び込んで行つた。

丁度客を送り出した小母さんは這入つた俊子の姿を見附けて欄干に顏を出してにつこりと會釋して迎へてゐる。通ひなれた、不思議ななつかしさに充されてゐる此家は俊子にとつて我家の樣な氣がされた。でコートも脱ぎ輕い袷羽織の裾を挑ねて疲れた脚を休めかゝつた。いつもながら小母さんは例の大きい丸髮に大島の綿入黑繻子の帶を締めて白々とぬり付けた白粉の顏を突き出しながら去つた客の跡片付けをして小まめに働いてゐる。此年

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

齡で、と其紅のついた大きい唇を見ながら俊子は小母さんの四十近い顏の容子を偸み見た。

戀人の青木の話できくと此阿古屋茶屋は建てられてから幾度替つたか知れぬ位に棲み移るがみな小婢を連れた妾ばかりで、晝のお客は此女主人と小婢の二人で小料理を出してゐるのださうだ。俊子は少し足の疲れを小息めてから此家の名物の礫茶の出る迄の間を廊下に出て見た。廊下は丸木を並べて此室と其次の室との二つをとりまいてゐる。表入口の如何にも京趣味の勝つた色彩のない縄暖簾を潜つて入る處から見れば此室などは只の平家建だが、坂のわきになつてゐるために其庭に向つた方は純然たる二階屋だ。そればかりか其下階には此家の持主たる佐野のお婆さんが廓里で磨きさらしたあとの餘命を浮世がくれの姿して一人淋しく暮してゐるのだと此處の沿革に委しい青木が丸木椽の端れに付いた段ばしごを示指して語つたものだ。

俊子は其欄干に倚り乍らいろいろな空想を擴げて見ては興味を覺えた。汁粉だの茶蕎麥、湯豆腐などと茶店がはりに些と休息して行く晝間の客にも貸し、町中を離れて東山まで落ち伸びて來る逢ひ引きの客にも貸す此不思議な小家を染染と味あふ様な心持ちである異様ななつかしさを覺えるのであつた。

まだ青木は來ない。あの怖え易い柔和な男は日光が沒れて夕暮れ時の人足疎れになつた

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

頃ひそかに我家を出るのであらうと思ふと俊子には漸く其待ち遠しさの辛さを覺え出したで多くもないあとの小室をあちこちとおいては柱にかけた名人の木彫を見たり、忍び客の枕を蔽くす二枚折の小屛風の貼り混ぜの浮世繪を見たり、何うせ僞筆ではあらふが阿古屋が書き遺したと云ふ額の小文字を讀んで見たりした。誰人の戯か、柱に削つて書いた墨繪筆の黑々とした筆の跡を見ると俊子は耐らなくそれがおもしろく感はれた。

勝手の方には人氣のない程靜かで他の客もない、俊子は二つ目の茶を壁で圍んだ三疊の方へ持つて來さした。ふと、高臺寺で撞く鐘なのか其一つづゝの餘音は陰々として命脈を曳いて響いて來る。花曇りは俄かに夕炎にかき消されてか障子にぼつと薄紅をさし誘へた。鐘も撞き終つたあとの靜閑さはなほ更ら山麓と云ふ程でもない人里にさし返つた。風があるのか、折々隙い間から忍び入つて床にかけた軸の柄の象牙がこんこんと壁を叩いて小さい綺麗な音を立てた。

俊子は待ち疲れた佗—佗しさに又丸木椽に立つて見た。東山の咲を競つた紅い花の梢は夕靄にかき包まれて紅く暗く持し込まれてゐる。此家の裏は何處かの別莊となつてゐると見え廣い庭園を圍む杉の並樹がもの〳〵しく聳えてゐる、其下に小川でもあるのかれのさゝやかなせゝらぎも響いて來る。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

俊子は夕暮れの薄ら寒さに阿兄の家で少し飲んだ洋酒のほてりも醒め、何となく空腹にもなつた。小母さんを呼んで足袋を穿きながら何か夕餉の替りになるものが出來るいときくと、

『なんにもおへん、けれどもお註文なら電話をかけますさかい少し暇がかゝりますけれども取り寄せます。』

と言はれて俊子は青木の好みさうなものを然う言ひつけた。小母さんと入れ交つて小婢は頓て雪洞を持つて來た。悠やかに忍び倚る長々しい夕暮れの仄かな光りは柱の黒繪も床の軸も次第に朧ろに包みそめて、やがて雪洞の骨の影は室の唐の壁の上へ大きな太い線を描いた。

俊子は夕宵の小寒さに椽側の障子を閉めに立つ時、青木らしい氣配がした。で俊子は俄に茵の上で固くなつて白く堆積した炎の上の灰を一つ一つ揺ひ落したりした。

『お待ちになりましたか。』

などと青木は自分でまわしを脱ぎ、黒い瞳をさも不安げに慄はせながら寐げに火鉢に倚る。

『お約束の時間前に家を出ちやつたもんですから随分待ちくたびれたわ。』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『ぢや早う來た方がよかつたんですね。實は私も他所へ倚つて時間を潰してゐました。』
『まあ。何處へ倚たの？』
『なあに、些と自分の知つた人の家です。祇園町の或る處……』
などと態々青木は引かゝりを求めたりした。
『ぢや私とおんなじね。私も倚りみちしてゐたのよ。』
『然でしたか。何處へ。』
と思はず吊り込まれて其異しげな眼を凝視した。而して謎の樣に無語でゐる其間に青木は羽織を脱いで細腰の上に締めた角帶を悠めたりした。
『夫れで早速ですが、あなたもう東京熱の方はお母樣に告白しちつたんですか？』
恁う俊子は悉く別な方面を語り出した。
『えゝ、あれは手紙で言つた通りです。そう母も承知してゐます。此上は店の仕末を姉の家と交渉して義兄さへ承諾して呉れたら夫れで好いのです。』
『さうぢや仕合せね。うまく行つたわ。だけれど私隨分待つてよ。まだ歸東り度いとは思はないけれども、成丈け早く準備をなさいましよ。』
恁う言つてゐる閑に小婢は自分の家で拵へた樣な小料理を運んで來た。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『何れ一度行つて改めて又再び歸へつて來なきや分りませんからね。だから此度は跡仕末は萬事阿兄に任せて仕舞つてでも是非早く出掛けてなくちやなりません。お待たせしますが今少時く辛抱して下さい。』

と言ひつゝ少し碎けて話しを爲出した。

其談しの中には東京ならば誰人憚らずに同棲しても好いと思ふとか、東京の支店では通勤する樣にして、而して小さい家を前に控へて其處で二人のかくれ家にすれば母の耳に入る事もなからふ、とか、現在やつてゐる染物店の擴張として東京へ支店を出す事だから他の親戚も苦情を持ち出しはすまいとか、成可く理想的な小意氣な店を出して調子よくやつて行きたいとか、それからそれへといろ〳〵な空想を擴げた。

『早く母の手から離れなきや、實にやり切れませんからね。』

恁う言つて青木は若々しい眼を光らせて新らしい生活の展開されて行く悅樂に醉う樣な心持ちを見せた。元來此染物店も彼の心に適しない商賣だつたが、ある學校の文科にゐるのを嗅ぎつけた親戚連は無理無態に引づり返して而して己父の跡を其儘受け次がせる事としたのである。俊子から見れば何でもないと思ふ事でも、其打破しがたい因襲に囚はれで青木は母の前で小さくなつてゐるのであつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『だけれどね。あなたの貞操は確かでせうかね。夫れが不思議にも私の第一問題になつてゐるんですよ。』

恁う酒の身にまわるに連れて青木は心の底の疑惧をさらげ出すかの様な口吻りになつて行つた。

『現在小三郎の一件だつてあなたが握り潰してゐるでせう。』

恁う語はれて俊子も思はず眼を慓はせた。京橋邊りへ出勤する僅か安藝人を相手にして何處で青木は惱まされてゐるのだらうとは思ふが、若しあの小三郎が其事實を告げたとすれば俊子には容易ならぬ問題だつた。茲まで青木との仲が眞實な戀の經路で發展するとは思ひ設けなかつた事とて旅愁の慰めとつい即興に乘り任せる亂婬な性情が逐々ある溫泉の夜の宿へ連れて行つた。夫れを青木につげ口したのは小三郎の復讐だらふが、此醜惡な印象を掌握されたといふ遣り處のない悔恨は嚴しく身をせめて來る。

何か知ら先刻はいやに空腹を覺えてゐた俊子も妙に盃ばかりを干してゐた。青木の方も注がれる每に否みもせず享けながら固くなつて沈默してゐる。何か語つて相手の心持ちから厭はしい問題の根を打斷らふ。恁う心ははやりながら俊子は何うする事も能きなかつ而して種々と考へを廻らしてゐる內にふと思ひ付いたのは、今晚の間にも二人の前にた小

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

三郎を招いて而して自分の冷酷な態度で何等の醜情關係のない事を證明したら、優しい青木の心は直ぐ難なく融けて仕舞ふであらふ。小三郎には可憐そうでも、裏切した彼れ自身の報ゐだと思へば理はない。恁う俊子は心を決めると眼を燿かせいやに浮々しくはしやぎ出した。

夕暮の永さに引替えて夜は速かに更け沈んで行つた。此家の隣の別莊からは冴え冴えしい音の響く夜廻りの拍子木が寂寞を破つて傳つて來る。小母さんの許へも通ふ人が通つて來たのか俄かに人聲が增して來てさも陽氣に聞えて來た。俊子は便所へ行つた序にそつと其勝手口を覗いて見た。男の方はよく分らなかつたが白々と抜き出した頸を俯かせて小母さんは頻りに晩酌の仕度を調へてゐた。

『檀那が來てゐる樣なのよ。』

と俊子は聲をかへて青木の傍に膝を落しながら耳元で囁くと、

『白髮のある男でせう。』

と青木はさも見知つた男の樣に云ふ。

『夫れよりかあなた。』

と話頭を移して、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『何時だつたかあなたがおもしろい話をしてやると云つたでせう。此家の事についてよ。』

と言ひつゝ俊子は一時熾んに阿古屋の名を出した看板娘のことを思ひ描いた。夫れはまだ良人がゐた時分のことだつたがよく清水なんかに散歩に來た折々此處の店先きや境内の處で顔の蒼白い髮の紅味勝つた而して嫌に赤々しい風采をした女に逢つた事である。青木の話に倚るとその娘の母親は某將校の未亡人とか稱して斬髮に被布姿で娘と二人此店を借り受けると、小料理を排して專ら碾茶汁粉茶蕎麥ばかりを出してゐたと言ふことだ。而して仕舞に矢張り娘の身に起つた悲劇と共に又もや或る人のおめかけに店を讓つて直ぐ近くの處へ移轉したいといふのである。青木は又いやに此女に興味を有つてゐたと見えて其娘を悲劇に落し入れた係りの深い某紳士をさも惡人の樣に言ひ罵しつたりし乍らよく世間にありふれた事件をかいつまんで挿話にした。娘がお客として取つた最初の男にいつか眞心のある戀と變つて一時失踪したりした事は俊子に取つて何でもなかつたが、青木の柔かい唇を開展しながら娘のよく締めてゐた帶の色氣だとか紅い髮の少し波を打つてゐた事などさも美しさうに形容して、而して或る朝早く訪ねると娘は氣輕に自分の帽子を持つて呉れたが其指の股に薄く白粉の跡が殘つてゐたとか僅かの事を嬉し氣にして談るのを見ると輕い嫉妬と共にさも其娘が妖艶な容姿をして心に映る。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『逃げたきりそれから何うしたの。』

『また捕まへて來たんでせう。而して少時く病氣で寢てゐた樣でしたが又間もなく今の處へ移轉して此度は立派な商人のお客を取つてゐます。』

恁う言つて青木は戯らるゝ玩具の樣な美しい弱々しげな女の幻影を描き見る樣に恍惚となつてゐる。

『仕合せな女ね。』

何う思つたのか恁麼ことを俊子は口に上して見た。火鉢の火が次第に白い灰となつて行くのを見ながら俊子は何時の間にか妙な寂寥を覺え起した。ふと荒凉たる自分の敗殘の樣な生活がまざまざと心に開轉し始めた。其處にゐる青木を殘して此儘何處か自分のかくれ家に閉じ籠つて了ひ度い程な淋しさだ。俊子は夫れきり何を青木が語り出さうが只默つて小耳を借してゐた。

已う春の夜は充分更けきつたと見えて夜廻りの音は其處此處で響き出した。青木は時計を出して見て時間のすぎた事に驚き乍らついと立つて廊下の障子を開けた。

『あ、綺麗だ、些と立つて見て御覽なさい。』と言はれて俊子は其扇先きから覗き込んだ。夜櫻のめぐりに燃え立つてゐる篝火は深い夜の水蒸氣に其焔を映し罩めて朧ろの春の夜は

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

紅梅色に染められてゐる。夫れを二人して凝乎見てゐる間に俊子はふと喧囂な生活爭鬪亂雜な思想や藝術の渦卷くあの東京の恐ろしい中央で、しめやかなもの丶音色と、趣味の發達した此美しい長閑な京都で人となつた青木の單純な生活が果して最後までも出ない傷けられずに行くだらうかと、俊子は泌々と青木の中高な横顏を恍とりと見てゐた。

『それあ迚も此麽美しい情景なんか東京では見られませんからね。』

此麽事を言ひつ丶密かに嚇かす樣な眼付をしたが、憧がれ拔いてゐる青木の眼には其怒濤の渦卷く樣な都會の生活が言ひ樣もなく慕はしかつた。

『ぢや茲を出ませうか。』

と青木は少時くして障子を閉めた。

『え丶、ぢや私の下宿へ歸つて其處から小三郎を招ぎ出して見ませうよ。でないとあなたの前で證明する方法がありませんもの。』

『そんな馬鹿な事はお止しなさい。』

と青木は慌て丶遮ぎりつ丶何等其處に疑念のない事を眼顏で見せた。

二

青木の準備はどん〳〵進んで行つて京都に止る日も次第に少なくなつた。俊子は阿兄の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

家を嫌つて近くの下宿屋で只一人閑散な日を送つて靑木の出發する日を待つてゐた。

俊子の夫の遺產は俊子の全所有物になつてゐるため、俊子の生活狀態に對して不快にも思ひ心配もしてゐる阿兄も然う手嚴しい壓制はできなかつた。京都見物、といふ甚だ體の好い表面の言ひ拔けを有つて來た俊子と靑木との關係はうす〳〵感知せぬではなかつたらしいが、つき止めて詮議だてする程の問題でもなく、又然した意見をきく程の可憐な俊子でもなかつたから只其噂さへも成可く耳に入れない樣にした。然うした倚らずさわらずの阿兄の態度を好い事にして俊子は次第に其家と遠かつて何時か一度招かれたきり足を向け樣としなかつた。

而しては靑木と夜となく晝となく會つてゐた。而して隔日の樣にしては阿古屋に逢つた鐘に暮れ、花に疊る東山の春の姿態は一日々々と酣になつて、而して往く春を思はせる樣な日の光りが次第に其影を濃くし、一雨降つたあとなぞは蒸し返る樣に陽氣が增した。

俊子は阿古屋で羽織を脫ぎすてゝ、身輕な素足で近くの湯に入つたりした。而して歸つて來ると持つて來た小說などを仄暗い障子の日かげを惜しみながら讀み耽つたりした。

或る日などは濃い春雨の絕え間なく降りつゞく日で、其裏庭の別莊の小川からは水のせゝらぎが一層明晰りと音を立てた。深い雨は東山の花も封じ、山の姿も包んで見渡すかぎ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

り只白く煙つてゐる。小母さんにあつらへた名物の蒸し壽司が屆いたので俊子は小婢と三人三疊の方の房室で卓を圍んだ。緩やかな京言葉で小母さんは自分の儚ない身の上話やら、又は阿古屋の沿革なぞを話しだした。

俊子は先刻から何時か靑木にきいたあの娘の事を思ひ出して、其背景を此雨にとり、花にとり、而して淸水燒の人形を賣る店の前へ來かゝる娘の姿を描いて見たりしてゐた時であつたからつい俊子は小母さんに夫れをきいて見た。

『あ、あの靜枝さんの事ですか。』

と小母さんは厚い唇に微笑を浮べながら今は中京邊のある帶地問屋の妾になつてゐるが極めて氣の多い質とて、それも何れ何かの事件と共に破綻するだらうなどと言ふ。

『まさか、然うでもないでせう、お母樣が嚴しい人だと云ふんぢやありませんか。』

『へえ、〳〵、母親てふ人は夫れは夫れは利に拔け目のない人ですさかいな、此阿古屋の持ち主さんでも酷い目にお逢ひやしたんどすせ。』

と言つて、娘の失踪したのに事よせて拂ふ可き家賃も蹈み潰して行つたのだとかいろいろの事件を曝らけ出した。而して娘は役者が好きで京極邊の座に出る女形を每夜此近くの待合へ連れ込んでゐた事もあつたが、已う夫れも今は續いてゐるかゐぬかも知らない。な

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ど丶其女形の顔容姿まで話してきかせた。

若しや夫れがあの小三郎ぢやないか、と俊子はひそかに氣をわるくした。

『私は今の若手役者の名はよう知りまへんさかいになあ。』

と言つて何處までも忘れたと言つた。俊子はほんの他人ごとだと思つた其娘までも自分の暗い生活の半面に係つてゐるかの樣に思はれて來て妙に不愉快な氣になつた。

『ぢや今の旦那もそんな薄情な質を知らないのぢやないでせうがねえ。』

恁う言ひつ丶俊子はふいと立上つて前の室の戸を開けて這入つた。已う雨もいくらか薄らいだ。青い芽を著しく吹き出した桃の梢は雨に濡れて一層紅味を帶びてゐる。背の低い緋櫻もすつかりと咲きさつてゐる。此分なら已う御室も晩からうと、俊子は其むかしの記憶から西山一帶の春氣色を描き出して見た。一週間ばかり前に青木に連れられて嵐山へ行つたもの丶、已う時刻が晩くて御室まで廻つてはゐられなかつた。夫れに白晝は成可く一緒に行き度くないといふ青木の用心深い考へを打こわすのも苦しいので、俊子はそれにさからはず行き度い處へは淋しくとも一人で出かけた。而して數多い良人の過去の親友やら知已やら隨分訪ねればきりもなくあるけれども、俊子はそれさへも成可く避けた。放埒と亂暴とで持ち頹した此殘骸を不可思議にもあの青木の一本の力で恁うまで單調に而して緊

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

張してゐられる事を思ふと俊子は自分が分らない樣に思はれた。他の男の香を嗅ぐと云ふ事が只々無意味な徒事の樣に思はれ、あらゆる關係のある男の眼から身を秘して靜かに燻ぶつてゐるやうな心持ちに浸つてゐた。けれども時とすると、それは處女が最初の異性に對して單純ながらも身の全部を其處へ投げ出し、あらゆる方面から自分の自由を拘束して貞操を嚴守してゐる、丁度其等のいかにも他愛ない安價な仕草の樣に思ひなされて覺えず馬鹿々々しくなる樣な事もあつた。けれど不思議にも其平和な心の狀態はお互に深くこそなれ少しの變化もやつて來なかつた。靑木の計畫通りに支店の他に控へた家で公然同棲する樣な日が只管新婚當時と同じ樣な期待の心を持つて空想された。

此廢れて行くばかりの體軀を何うしやう、恁う思ひ悶えた日はあとかたもなく消えて漸く新らしい生命ちに復活して來たやうな悅樂が油の樣に沸き上つて來る事もあつた。何等かと言へば、此靑木を逃すまいとする努力が次第次第に自然な心持ちになつて行つて本當の自分の淫慾の强い性情すら疑はしくなつて行つた。

然しそれもみな努力が爲して行つた結果だつた。東京を逃れて來たのもあの押し倚せて來る樣ないろいろな誘惑の手を避けるためであつたし、此平面を廻轉する繪卷物のやうな京都の情逐に自分の心持ちを染ませやうとするのも、あの靑木の生活と一致したいと云ふ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

爲だ。慴からず思つた小三郎ともあの一度の逢瀨から以後ばつたりと消息を斷つてしみじみ下宿屋まで訪ねて來て呉れたのに居留守を作つて追つ拂つた。

然ういふ萬てに作爲と努力で俊子は何處までも青木に沒入して行つた。

『お出でやしとすえ。』

恁う言つて小婢は座蒲團を有つて入つて來た。直ぐ其後から青木は疲勞らしい顏色をして、まわしの袖を雨で濡らせ乍ら廊下を傳つて來た。

『おや、桃がそんなに咲き揃つたの。』

と來るなり彼も丸木椽に立つて見て雨にくすぶる外の氣色を見渡した。

『今日はね、隨分阿兄を前に置いて戰つて來たんです。母も私には閉口してゐた樣だつたが。然し姉があんな頑固な女ですからね。』

恁う前置して、店を阿兄に任せる事について三人の前で語ひまくつた自分の心の狀態をさも嬉しげにして語つてきかせた。而して長上を以て壓し付けやうとする母や姉や姉の良人などの言葉の資料のない事を嘲つたりした。

其處へ小婢が又酒を湯豆腐に誘へて持つて來た。けれども阿兄の家でも自棄になつて飲んだため迚も此儘續けられない、辛うじて今道々醒まして來た處だ。それよりは寧ろ京極

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

へでも行つて久し振で安芝居の一幕でも見た方が好いだらう、などと云つた。芝居と言へば小三郎の出てゐる處より他にはない。けれどもそう東上は確定した樣なものだし、夫れに資金さへ整へば何時でも出發の出來る今日になつては少し噂さの種を撒いたとて差支へはなからう。悠う又青木は言ひ足すのである。

『夫れぢや俥をさう言ひませう。』

と俊子も立上つて仕度をした。

二人が京極の六角で俥から降りたのは巳う日沒をすぎてゐた頃であつた。其處から步いて明治座へ這入つて行つた。丁度幕間で入り揃つた人々は座から立つて廊下にも花道にもまつ黑にたかつてゐた。青木は人に知られぬ樣に棧敷の二階がよからふと云ふので顏馴染のお茶つ子の女を先きに立てゝ上つて行つた。

持つて來た番付けを見ると前に大したものはなかつた。大阪邊の或る作家の書き下した四幕つゞきのものが今漸く三幕を終つた處だと云ふ。丁度大團圓には小三郎が中心になつて出る女の役を務めてゐた。

俊子は紅と白との布で鉾に取り捲いた柱のかげに顏を蔽し乍ら眼を瞠つて下棧敷の美しく居並ぶ舞子やら藝者連の姿ばかりを見下してゐた。白い襟脚や、松葉色の根がけや、大

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

きい島田髷なぞがみづみづしく搖いでゐる。其中にも青木の見知つた女が混つてゐると見えて、不意に覗上げて見交した眼を笑はせながらお互に嬉しさうな會釋をしてゐる。而して何か書いた名札を二つに捻つてひらひら前に落すと、可憐い赤襟を平たく見せた舞子が夫れを拾つて大袈裟に記した辭を讀み上げ乍ら笑ひ轉がつたりするのである。

青木は又頻りに指したりして知つた藝者の名だとか旦那が誰人だとか、親許が何邊にあるのだとかまで詳しく喋り出す。

間もなく其脚本の切りの幕が開かれた。貧弱な舞臺背の景前に焦々しい何の氣分もない役者が與へられた藝のきりを人形の樣になつて空虛に働いてゐるにすぎないのを見ると、俊子はわけもなくいやな佗しい氣になつた。青木も下を向ひて、美しい藝者や舞子の餘念なく舞臺に向つて其姿態の動かせもせぬのをさも感心した樣にして覗いてゐるのである。

やがて其舞臺へは小三郎のお夏が現はれた。向方でも立派に眼を向けて二人揃つた此方の棧敷凝乎見上げたりした。而して俊子が落す視線には外らしながら青木に對つて輕い目禮なぞをした。何うせ徒らない仕ぐさではあつたが、不思議にも其一つ一つの臺詞にも俊子は力をこめてきいてゐた。又きかねばならぬ樣に心持ちが促した。叶はぬ戀のやるせなさに身を悶え、心を嘆かせ死に入るやうに泣き悲しむ一句一句は自然な情致が含まれて是

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

れ迄にない才能が其全身に漲つてゝもゐるかのやうに見えた。

青木が傍から頻りと何かを語ひつゞけてゐるが、殆夫れには事を借かず俊子に舞臺の美しい臺詞ばかりを聽き惚れた。

間もなく幕は大團圓を告げて靜かに小三郎の娘姿を蔽して仕舞つた。

『今晩のは些とはものになつてゐましたね。』

と青木の顏を見て言ふと、彼は先刻からの俊子を不滿らしくして只無語て聞かない振りをしてゐた。それでも俊子は茫然りとなつてゐた。

其間に幕はどんどん進んで中幕も終つた。若しかあの小三郎の細長い瘠軀がよく樂屋のものが往來する薄暗い廊下の彼方に見えるやうな事もあるかと、ぢつと視線を二等席の背方の隅へ注いでゐた。すると意外にも小三郎は二人の棧敷へ這つて來た。意氣な淺黃裏の縞絣の袖をぴらぴらさせて二人に齒の浮くやうなお世辭を使つた。

『大分今晩は失敗しました。』

恁う言つて女の樣に頸首をすつと引こめて、笑顏を作る。

俊子は青木に大抵話しをさせて成可く無語で控へゐた。

『おい。變り目每に挨拶に廻つたつて損も行くまいぜ。』

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青木は平素に似ず慇懃口を利いた。而して二人の關係を更らに何等遮る事のない樣に振り撒く調子が俊子には何となく青木の附刄のやうに見なされた。然し俊子は何處までも冷淡に空々しく構えて青木の疑惧の中心から逃れやうと頻りに心で工夫を凝した。小三郎の方でも當然自分が一時の玩具として飜弄されたと言ふ事に氣を注けてはゐながら矢張り何處か未練らしく折々俊子にだけの談話を交した。すると青木は其話の中で阿兄の友人を見付けたとか言つて挨拶を爲に立つて行く。斯うして二人は遂々向ひ會つて仕舞はなければならなくなつた。

『何時だつたか訪ねてですつたんだつてね。不在で失禮しちやつたわ。

『えゝ。あの時の事ですか?』

と小三郎はふと皮肉に笑ひながら、

『阿古屋で些とお姿を見ましたな。それで其歸りがけに倚りましたんや。大分仲がええやおへんか、けれどもあんなに見せ付けんかてよろしおすやろ。』

恁う小三郎は言つて、驚き顏の俊子に何日の何時頃に二人の姿を祇園町の中央で見たとか、阿古屋では二人の出て行く時に自分逹は前の入口から上つて行つて確かにそれと見て居つたとか、種々の複雜な事件を浴せかけた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

而して青木が其知人の席から歸つて來る姿を見ると慌しげに口を倚せて、

『青木さんは青木さんどすやろ。まあそんないにそらさうにせんと一層何處ぞへ行きまへろいな。』

と慫う言ひきると其鋭敏らしい瞳を耀かせて其答辯の眼色を窺うとする。

『えゝ。何れ其內。』

俊子は背から汗の出る程心を慓はせながら只是れだけをやつと言つた。けれども其眼には充分ある意味を物語つて、激しい動搖の渦巻きに萬ての意識を忘却してでもゐるかの樣な表情をしてゐた。

青木が座に返ると、小三郎は丁度其處の隣座敷へ這入つて來た藝者連れの一行を指して

『あれがあたしの親方の情い人です。』

などと言つて笑つた。而してさも何事もなかつた樣な眼色をして俊子にもつまらぬ戲れを言ひながら又樂屋の方へ歸つて行つた。

大切りは見る程のものではなかつた。青木は疲れたと言ふ樣な風をして今から直ぐに歸らうと云ひ出す。

『つまらないわね。ぢや直ぐ出ませう。』

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

と言つて勢よく立上つたが俊子は自分にも怪訝な位ゐ小三郎に心を遺しながら青木に尾き隨つて外へ出た。

流石に春の夜の京極はしめやかな雨あがりの灯にかがやき今日一日の花見を失つた人々は申合した樣に此一處に集まつて來た。二人は人ごみをよけて河原町を四條に出ると、矢張り行處のない詮方なさに俥を阿古屋の方へ向けさせてゐた。（完）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

夜のふね――望月れい――

紺色の波のゆらめく水のうへ
しづかにはこぶわがふねよ
みづとりのごとうなじのべ
くちをしたへる惡人も
もの丶すがたは胸に消え
とめかねて、かたなきそらを見いりつ丶

破れしあと

すくよかにもえしいのちに、お丶時の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

殘せるきずのいたましさ、
すなをながらにふとみだれ
せまれるごとき嘆息の
胸にひろごるやるせなさ
われならぬ人のうへにも、あゝつねに
やぶれてはきずの殘らむ、

あかき椿

ともし火をなゝめにうけて
あかき椿のあたゝかく
フラスコの白き水吸ふ
戀人よ、やすらひてありはあれども

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

かゝる夕は愛欲に身内(みうち)ぞ燃ゆる。

新生

愛でらるゝ事のうれしさ、いつしかに
君したふべくなりにけり
君の心のすなほさは
胸深くしのびいり涙をさそふ。
優心(やさごゝろ)またば破らじ
かくあげしわが手の上に
したゝれるひろき心を人知るや。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

あの人――原田琴――

○

泣いても泣いても涙ばかり、
あの人が流れ出るのぢやない。

書いても書いても筆のこと、
あの人の爪のさきにもふれるのぢやない、

よんでもよんでもこれは文。
あの人の憎まれ口も聞えるのぢやない。

○

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

寒菊のひと〻で咲いてる心いき。

お七とお染が、
誘ひに來たとて。
わたしやひとりで咲いてるわ。

喜の介と丹次郎が、
話しに來たとて、
だまつてひとりで咲いてるわ。

源氏だつて業平だつて知らないわ。
あの人がかうして釘づけていつたのですもの。

○

水仙のひとりで寢たる青白さ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

そのはしにそつとふれても、
火のつく樣なわかい男が。
香水をふりそゝぐ樣な、
匂ふ心の寶な男が。

もしやこの世にあつたなら、
わたしの魔藥がとけませう。

○

わからないでせう、
ほんとにわからないでせう。
私は私ですもの。
酒にも醉はず。
あの人にも逢はず。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

花も見ず、
歌もうたはず、
琴もひかず。
ただぢつとかうして、
靜かに泣いてるのですよ
わからないでせう
ほんとにわからないでせう、
實際は私にもわからないの、

○

私の目の見えない中に、
逢はせて下さい。

私の耳の聞えない中に、
話させて下さい。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

私の口のきかれない中に、
お約束をしませう。

○

しとしととふりそそぐ、
銀の雨にしつぽりとぬれた
ひなげしの心持ち。

なまぬるいうすいろの、
風にそそのかされて、
わけもなくはらはらとする
さくらの心持ち。

葡萄酒のあくどい紅の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ちとすつぱい心持ち。

何もかもとりあつめたる。

わが心持ち。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

美くしき獄
——荒木郁——

私はあの頃のことを忘れやしませんわ、そりやいつになつたつて忘れつこありやしない手紙を差しあげないことをそんなふうに取られちや困つて了ふわ。

ねえ美いちやんそんなに矢鱈と怒らないで私の云ふことを辛棒して聞いて下さい。

私は今迄生きてゐる中にあの時程樂しかつたことはありませんの、そりやね今の私はもとと違つて物質的には樂な生活してゐるの、けれどそんなものは私の心を慰めてもくれなければ又、幸福にしてもくれやしません。私はもう毎日あの頃のこと許り考へてゐますの、殊に木の實を拾ふ時分のことなどはね、全で手に取るやうに偲ばれるの、ほら、二人でよくうたつた唄があるぢやありませんか、林檎を取つて二人の籠に一杯になると、あの奇麗な小石が浮いてゐるやうに見える河にそつて街の八百屋まで届ける道々、

わたしの家は河上よ、

あなたの家は河下よ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

所は百里離れても
思ふ心は一つだわ。
今この河に俯いて
あなたを思ふたましひは、
水と一共に流れゆき
あなたの岸につくのです。
どうぞあなた氣をつけて
汲んで下さいこの水を。

と唄つたぢやありませんか、ね私はちつとも忘れやしないでせう、私達二人が道路を歩くときはきつと手を組んでゐたわね、そして兩端の手にあの大きな籠を持つて………………貴女は太いまるい丁度アッチャ兄樣のやうな聲で、私はめいるやうに細い哀しい聲でうたひながら歩いたぢやないの、そしてあの八百屋ぢや小父さんがお金を渡すときと、小母さんがお金を渡すときとは相場が違つたのね、今日は屹度例もより餘計だらうなんて思ふと小母さんが出て來て割合に少ない位のお金を渡して『御苦勞さんつ』て突慳貪に云つたぢやないの、すると二人は一緒にあの家を逃げるやうに馳けだして御影橋の邊まで來ると、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『厭なおばさんね。』と云ひながらお腹を叩いて笑つたわ。

私達は唄をうたふ時はいつも小さい聲だけれども笑ふ時はそりや〳〵大きな聲をだしたものは、さうすると其聲を聞きつけた近所の人達は私達の顏を見て、

『林檎娘さん儲かりましたかね。』つて親切だか面白半分だか知らないけれど聞くぢやないの。

琴似村では私達のことをアッチャさんの林檎娘つてよんでゐたのね、何だか譯の分らない綽名ぢやありませんか、けれど今考へるとその譯の分らないところが大變に懷しいわ、それから果實園に歸るとアッチャお孃樣が、

『お早う、美いちやん喜いちやん今日は澤山されたの？ 御苦勞さま。』つこあの水色のカーテンの下つた寢部屋から小鳥のやうな聲で仰有つたわ、あの人達はいつも寢坊だつたのね、アッチャ兄樣もアッチャお孃樣も………けれど二人とも仲好しらしかつたのね、丁度私達が仲好しのやうにあの人達はいつも手を組んで彼在つたわ、そして始めつから石の廊下に出て來なされぱいゝのに、二つの窓から別々に首をつきだしてね、だけれどもあの廊下に出て來なさるのは私達の爲め許りぢやないのよ、私今考へるとどうもさうぢやないらしくつてよ、何故なら私達には每日同じ言葉を二三言繰りかへして話すだけであとは大

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

概私達二人が側にゐることを全で忘れたやうに二人で許り話して被在つたわ、お孃樣は瑠璃色の寢卷がお好きだつたぢやありませんか、そいでかぶりものもなにもしないで、勿體ない程眞白な首へ短かい金茶の髮をたらして久し振りで出會つた戀人にでも話すやうに早言で、アッチャ兄樣の肩へ手をかけて碧の眼を對手の頭の先から足の先までちらかして手だの顏だのにキスをするまで私達はぼつんと待たせられたものだつたわ。

あの頃から私は氣短だつたもので例も待ちきれずに、

『私たちはもう歸つていゝのでムいませう。』するとおふたりは吃驚したやうに飛び離れて『お待ち、美いちやん喜いちやん』態う仰有つて銀紙に包んでお菓子を二個づゝ貰つてから私達の部屋に歸りましたのね。あのおふたりは私達の中一人を呼ぶ時でも美いちやん喜いちやんつて二人前の名をお呼びになつたのね、あの方たちは私と貴女のうちどつちが美いちやんだか御存じなかつたのよ、ほら私が東京に來ると定つた時に漸くお分りになつたんだわ。

私東京へ來た當座こそ手紙も差あげたけれど、こちらにゐる中に遣はずにゐるので言葉も自然と忘れてゆくのでつひ御無沙汰勝ちになつてゐた處、貴女からアッチャ兄樣のお死去のことを報せて下さつたでせう。その後久しく絶つてからアッチャお孃樣が東京へ被來

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

つたといふことも貴女からのお便りで知つたのです、がお孃樣の所に私がおたづねした時はもうあのお孃樣は尼樣になる支度をして被在つたので私はおめにかゝることが出來ませんでした、その後何時頃でしたか木犀の香のする時分、あのお孃樣の被在る尼寺の前を通るといゝ香がするのでせう私は吸はれるやうに知らず〳〵門を這入つて左側の御堂の前にたちました、その時琴似村のアッチャ樣の石段のやうな所を降りて御堂の方に向つて行く數人の黑い冠りものに黑い着物の人たちをみつけました。よく見るとその中にアッチャお孃樣が被在たのぢやありませんか、私は何とはなしに淚がこぼれましたそして周章て近寄らうとしましたが足が妙にすくんで步けませんでした、あのお孃樣には黑い尼樣の服が大變にお似合ひで、女神のやうに崇高にお見受けしたのです。赤薔薇の花瓣のやうなお口も、みどりのお眼もそのまゝちつとも昔のお顏と變られた處はありませんでした、だがそれは唯々お顏だけのことで昔のやうな寢坊好きのお話好きのよく馬に召すアッチャお孃樣ではないと思ふとうら悲しい氣になつて來ます。どうしてあんなに美くしい賑な方が尼樣になどなる氣を起しなさつたのでせうね。

まさか幼い頃のことやアッチャ兄樣と仲好しであつた時のことをお忘れになる筈はありますまいが……　……よくも思ひ切つてね。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

眞個にあの美くしい方がどうして黄金の髮をすつかり黒い布で包まうなんて慘酷な考を出しなさつたのでせう。

私その事に就て少し考へて見ましたの、だけどそれが當るかどうかは分りやしないわ、そんなことをいふと少し可笑しけれど又あり得べきことぢやないけれど、アッチャお孃樣はアッチャお兄樣を兄弟以上に好きであつたのかと思はれるわ、まあこんな考へを起すやうになつたのは大人になつたので惡い猜疑心とでもいふものでせう。

大人つて云へば私東京へ出て來て間もなく結婚したでせう、その時大人つていふものはいらくなものだと思つたわ、結婚つていふことはもう人間の最大幸福だと思つたの、何故といふなら今迄は何も彼も獨りで考ても獨でやつてゆかなけりやならなかつたのに結婚すると何も考へないでよくなつたのです。第一衣食住といふ實際的な心配は全でいらなくなつたのでせう、それから他のことだつて總て良人任せでいゝのですもの。

私はたゞもう其の日〳〵の遊び方を考へてなりやそれで無事でしたの、庭の兩端に花壇を拵へて草花を植へるとか小鳥を飼つたり、それから貴女と一緒にゐる時分から兎が大變好きだつたでせう、それで私兎も飼ひましたの、琴似の方には大概白毛のが多かつたので

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

すが東京には種々な毛色のがありますの、三毛だのブチだの、赤い眼玉銀色の眼玉………
………兎つていふ奴はどこへ行つても相變らず大食家のお揃ひね、例の通り老人のやうな口つきでもぐ〳〵やる容子の可愛いこと。

だがね、こんなことを喜んでゐる中は平和でしたわ、良人が何をしやうと何時に外出しやうと又歸宅しやうと私は平氣でした。が何時のまにか私は草や花の世話よりも良人のことを彼是と云つて見たり二三日すると松葉のやうにチク〳〵する鬚を剃つてやつたり襟飾りだの著物の柄だのと良人の身のまわりのことを許りおもちやにしてみたくなりましたの、恁んなやうに世話女房つていつたやうな具合になり又、良人といふものが世間の何ものよりも尊く偉く又好きでもあると氣付いた頃、良人はもう妻といふものが餘り珍らしく感じられない程の日數が經つてゐました。それで私は良人の不在中は何だか哀しいこと許り考へてゐました。そんなだものて自然と家の中は前程面白くゆかないやうになつたので一とまづ別居した方が宜からうと良人が云ひだしたのです。尤もそれにはいろんな家内の事情も多少は含まれてゐたのですが……つまり第一の要目に數へられるのは仕事の邪魔になるといふこと、それからあんまり世間知らずだから他の家庭を見たらよからうなんていふことも原因であつたのです。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

私…………その時直ぐに承知しましたの、お腹の中はにえくりかへるやうに情なかつたのですが私は良人の言葉を一言もそむくことが出來なかつたのです。それ程私は良人を好きだつたのです。それに私自身が世間知らずだといふことはどんなに手前勝手に考へてもさうに違ひないのですものね、男の人つたらアッチャ兄樣より外は近しく話したこともなし又女の人でもアッチャお孃樣と私達の先生、もうほんとにそれ位であつたのですものね、で私は下町の或商家の二階に一時住むことに定まりました、何しろ我家といふものをもたない私には萬事がひけめで厶いました。その家の內儀さんは黑人あがりださうで、何かにつけて調子よく又姉らしい氣持をもつて私をいたわつてくれました。

私は東向きの六疊と次の間の三疊との二部屋をあてがわれたのです。それ以來今も尙ほ終日何もしないで暮してゐます。朝めさめると早く夜がくればいゝと思ひ夜になれば早く朝が來ればいゝと思つて、爲すこともなくぢいと月日のゆくのをたゞ待つてゐました。

ね美いちやん。

人間は何もしない位苦しいことはありませんね。遊びもせず働きもせずたゞ西陽の照りつけられる室に靜に座つてゐると虻が鷄の血を吸ふやうに着物の上からすッと西陽は三疊の高窓から覗きこんで私の血を吸つてゆくのです。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

かうやつて血を吸はれるのが自分の運命でゞもあるやうな氣がしてそれを斥ける勇氣はありません、もう私は鳥渡外出するのも厭になり、人と言葉を交へるのが五月蠅さくなりそしてもう此頃ではそれがだん／＼募つて東や南から這入つて來る判然とした太陽の光線が怖ろしくなりました。電氣や瓦斯の美くしい光りはあまり明るすぎて自分の身體をその前にもつてゆくと溶け込みさうな氣がして恐いのです。たゞもう自分の身體にとつては害のある鉛色のおもくろしい夕陽のみは慕しいやうに思へだしたのです。

私は幾度かこのまゝではいけないと思ひました生活を變へやうと思つたの、私はこの二階を捨て良人とも別れて私を長い間やさしく愛してくれた琴似村へ歸らうと決心したのです。

苦しい／＼と思ひながら怖ろしい夕陽が慕しいやうに、私は隨分みぢめな哀しい位置に自分の身を置かせられてもそれでも良人と別れるのは厭なのです。恁うして一番近しい貴女にさへ良人のことに就いては惡口は云へないのです。何故なら私は良人を好きだからなのです。

戀とか愛とかいふものは私、魔だと思ひます。自分を哀しい目に會せたり自分の良心を汚したりまぢめさを傷けたりするのはみんな戀と愛の力です。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

戀と愛！　最も怖ろしい力强い魔なのです。私はそれと氣付いてゐても愛に傷められた心臟は自分の取るべき道を知りながらも尙ほ我と我が傷手をかきむしッてゆくのです。

二

私の部屋の東の窓をあけるとまるで市街のうちとは思へない位廣々として何町か先の××邸の庭と洋館とが見えます。怖ろしいが慕しい夕方になるとそこの二階からオルガンの音が聞えて來るのです。地獄の底で惡魔でも歌ひさうな重つたい聲で、それからもう人顏が判然と見えない位の時、魔の時……………そんなに云ふぢやないの、でねその頃になると日本婦人らしい洋裝の人がヴエランダに出て屹度私の二階を見てゐますの。

私は西の窓からは鉛のやうな陽が這入つて來るし、東の窓からは氣味の惡いオルガンの音などが聞えるのですもの私何かに呪はれてゐるのぢやないかと思つてゐるのよ。

だがね、呪はれると云へば只今のお手紙で私よりも、もつと呪はれてゐる人のことを考へてみると自分のことなどはまだ小さいことだと思つて自分で自分を慰めてゐますの。

何といふ因果でせうね、私貴女の言葉を疑るといふ譯ぢや決してないけれどそんな不思議なことが現世にあらうかと思つたわ、だつてアッチヤ御兄様とアッチヤお孃樣とは、眞實

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の御兄妹でせう、それだのに戀をするなんて丈も私そんなことを想像して見たこともあつたのですがまさか事實になつて見ると疑りたいやうよ。而もその上子供まで產むなんて何といふ情ないことでせう。あんなに美くしいお孃樣が子供を產む、唯々もうその子供を產むといふことだけでも不思議な位ですのにまして…………

それで貴女はそのお子さまを育て被在るんだつて？

何故アッチャお孃樣は御自分でお育てにならないんでせうね、我が子を捨てゝも自分の罪を償はうと思つて被在るんでせうか。

どんなことがあつたにした處で折角持つて生れた美くしさをむざ〳〵自分の年を忘れて了ひさうな眞黒な着物の中に埋めて仕舞ふなんて………一層人並はづれた惡いことをしたのならまたそのまゝ進まなけりやいけないと思ひますわ。

ねえ美いちやん。

お好きな人の紀念を大切に育てたらしいゝぢやありませんか。

でそのお子さまといふのは嘸美くしい方でせうね、お孃樣に似て被在つても亦、お兄樣に似て被在つてもどつちにしたつて美くしくおありでせうと思つてよ。長い睫毛に覆はれた眼は私等のやうな大人が見るのには愧しい位なのでせう、それで和らかく肥つた手を握

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

つてにこ〳〵始終笑つて被在るんでせうね、
私見たいわ。
美いちやん貴女は幸福者よ、そんなに美くしいお子さまを自分のものにしてそれからあの春許りのやうな、夏のまひる許りのやうな冬の夜許りのやうな、まあ何とも云へない四六時中いゝ氣持のするあの大きな果實園やアッチャ邸の主人におなりになるなんて、私にもつと早く報らせて下さりやもつと喜ぶわ。
私、この二階に漂よつてゐる愛の魔から逃れて自分の手を自分で動し、自分の心持を自分で命令したい、私は大きな庭も又美くしい子供も要らない。
たゞもう愛の魔からのがれたい許り。

三

今日はまるで初夏のやうな暖かさ、貴女の方では桃や櫻梅が周章てゝ咲きだしたのでせうね。そして私達のあのうたをさんざ聞かしてやつた河緣の柳も青い芽をふきだしたんでせう、私目に見えるやうよ。
ミユーゲー有難う。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

此の部屋へ來てから小包なんていふものは私始めて受取つたのよ。だものでもうすつかり周章てちやつてもみつぶすやうにして開けたの、好い香がしたわ。あの香は琴似村の香よ。私嬉しくつて夜の神様のやうに花の上に眼から露をこぼして了つたの。

ですが私少し不平が云ひたいの。

美くしき獄……そんな文句は私に丁度相應しいのですわ、あんな氣持のよい家や可愛いお子さまを自分のものとして、それで尙ほ獄とは何事なの。

私に最も似合ひの言葉、私の部屋は愛の魔に包まれた獄なの。

けれど私が大人ぶつて不平を並べて見たところで貴女の現今の御容子をもつと判然報せて頂かない上は分らないのがほんとね。

私のことだつて、私の內狀を知らないものは丁度貴女に對する私のやうなものかも知れないわね、

そして見ると見た眼に美くしい獄もあれば汚ない天國もあるわけね。

風もないのに私がこの字をかきかけて眼をあげた時椿が、咲き誇つた桃色の花が音もなくまつくろい濕つた土の上に落ちてよ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

その花はね良人が長年愛してゐた珍らしい椿なの、鉢に入れて持つて來た椿、それはね、四五年目に花が咲くのださうよ、咲きだしてから今日始めて一つ散つたの。(三、二、一〇、)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

小鳥よ ―青木穠―

小鳥、小鳥、汝が聲きけばわが心金線のごとふる
へてやまず
青柳の垂枝のなよびなよ〳〵と朝風かろし小
鳥のなくも
弟が口笛につれちちとなくさそはれてなくこ
ゑの寂しさ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

身じろぎて小とりのなければほろ〳〵と散るは涙か梅のたち枝を

みづ〳〵しき瞳をあげて稚鳥(わかどり)はみどりの空にあこがれてなく

汝かくろきひとみまもればさしぐめり春といふものを何思ふらむ

とき色のうすき幕ひく朝空を春の使の小鳥はきたる

なぞ腦のかくはおもたきことり等のあしたの歌のうらやましさよ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

けはひする窓にきてなゝ鳥のこゑ金簪うてば
こゝろよくなる

佛蘭西の花のしづくを黒髪にちらしてをれば
鶯のなく

櫛とればおもふがまゝにくろかみのふくらむ
もよし春の朝なり

木蓮のつぼみやぶりて春の風ふく日となりぬ
小とりうたはな

春はきぬ弟が頬の血のいろのもえまさるにぞ
吐息つかるる

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

林檎

——三ケ島葭——

おほらかに噛める林檎の心地しぬ足駄にふる
る春のあわゆき

滯りなかれと願ふたまゆらに心は急ぐかたち
こそすれ

明日といふ誓を破り今日とせしみこころなど
を恨むべきかな

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

傷一つ癒ゆるとともに甦る心はつひに死もくぐりえず

君死なば我も死なましそのほかに如何なることもあらじとぞ思ふ

もろともにと思へばこそ悲しけれ火を見ていよよ心冷えゆく

ここにして君と別れのかなしみを夢みるまでに心足らひぬ

悔さへも力となりていや深く陥らしむる身かと思ひぬ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

かなしみは我に足るてふみ心をいぶかしみた
る心よりきぬ

くらがりを探る心地に靴深く入るれば雪のき
しむ朝かな

小鳥きてついばまんよりめでんなど言ひぬ木
の實は數あるものを

鳥よしまろきこがねの夢と言ひ枇杷の實一つ
くはへて飛べば

たたかひはここならましと思へどもすべての敵
は君にむかへり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

逢ふまでの苦しき心まぎらせよ明日もあさても愁おこりて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

火事——白雨——

寝てあれば火事に起されかけて出る門に火の子は赤々とふる

バチ〳〵と家にゐてきく四軒目の隣りが焼ける音なり悲し

恐ろしし女許りが三人して打ふるえつゝ行李をしばる

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

鐘鳴らず消防夫さへ來らねば燃ゆるがまゝに
火は廣ごれり

燃えつのる火の手の上に明けがたの雨は冷た
く降りそゝぐなり

火事を中にへだてゝ隣る君の家近き我家も心
もとなし

落ちつかぬ心おさへてかけてゆく君が家には
はや火移れり

悲しさに心震へて見てありぬ雨の中にて燃え
ゆくさまを

幾度か泥足のまゝ歸り來ては妹等と荷作りをせり

美くしと火事をわけなくよろこびし昨日の我の子供なりしか

わが君を愛づる心はひたすらに火事とし聞けば心恐れぬ

巣鴨には水しなければおをけなくあとなく君の家は燒けけり

泥にまみれ雨にぬれたる明け方の火のおさまりしあとの寒けさ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

古郷にてうたへる（その二）

——柴田かよ——

燃えさかる爐より離れて
いねに來しなゝなんどのうちの
寂しかりけり

氣もかろく
薪を送る仕切など書き居り
朝の陽を浴びながら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

遠かたに白くゆた〳〵立ちのぼる
炭やくけむり
見つつわがゆく

鶏は鳥屋に上れり
をもむろに
庫の大戸のしまる夕ぐれ

手造りの豆腐の汁を幾杯か
かえて爐ばたに
夕餉すますも

節分の豆そこゝに零れをり
身じろぎすれば

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

舞ふほこりかな

型のごと姑(はゝ)の着ものを
借着して爐にちかよれば
ねむりさしくも

しまひ風呂はいれば足に
ざら〳〵と觸るゝ砂あり
まこと淋みしき

俵うり
脂(やに)にまみれし黄なる齒を
むきて俵の値を挑み居り

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

従妹に——野枝——

今、私の頭の中で二つのものが縺れ合つて私をいろいろに迷はして居ります私は今まで斯うして幾度きみちやんに手紙を書きかけたか知れないのです。けれども私の書いたものが果して正當に何の誤もなくきみちやんに理解されるかどうかとそれを考へては、若しきみちやんに理解が出來なかつたときにはきみちやんの爲めにもまた私の爲にも大變不幸だと思はれますので止めました。けれども、どうしても書きたくてたまらないので。二つのものと云ふのは、その書きたいのと、書いて、もし惡い結果になるといけないと云ふ心配とを云つたのです。

きみちやんにはね、姉さんがどう見えますか？　恐らくきみちやんには、私をいゝ人かわるい人かと聞かれたら、一寸答へに困るでせう？　もしかしたらきみちやんは、姉さんはいけない人だと思つてゐるかもしれませんね、それにしてもなほ、いろ〳〵な疑問が澤山に私についてあるだらうと思ひます。その疑問は決して私自身ばかりでなくきみちやん

にとつてもきつと大事なものかもしれません。屹度私がこれから書くことを讀んで行くうちには思ひあたることがあるだらうと思ひます。

私のやつたことに就いてきみちやんは皆はしらないのでせう？　叔母さんなんかの考へでは、私は本當に仕樣のない墮落した我儘娘だとでも思つてお出でせう。私の今迄の行爲を極く普通な、世間的に觀れば誰にでもさうとしか思へないことは私自身にも分ります。けれども私にはまた私の理屈があるのです。そして私は、それを一番本當だと信じて居ります。何事によらずすべて人の考へと云ふものはその人自身より他の人には何にも分らないものだと思ひます。さうでせう？　きみちやんが何か考へてゐるでせう、それをいくら他の人が考へて見た處できみちやんの考へてゐる本當のことは分らないものです。きみちやん一人きりが本當で後の人の考へは、當推量だとか臆測とか云ふものでそれは間違つてゐるのです。私の場合にそれをあてはめて見ますと私の父さんや母さんそれから、叔母さんたちやその他の人たちでもみんなその當推量をしてて、ん、で、に怒つたり恨んだりしてゐるのです。で、きみちやんは矢張りその叔母さんの當推量で怒つたり惡口云つたりしてゐるのばかり聞いてゐるのでせう――併しそれにもかゝはらずきみちやんは矢張り私の事について冷淡ではないと私は思つてゐます。――或は私の獨りきめできみちやんが讀んだらふきだ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

すかもしれないけれど――。だからいま私が私の本當の氣持ちをきみちやんに聞いてもらふのです。そして、母さんたちの當推量と、私の本當の考へがどれだけ違つてゐるかをくらべるといふことは決して無駄ぢやないと私は信じてこれを書きます。

先づ私が何時でも皆から浴びせられる言葉はわがまゝだと云ふこと、不孝者と云ふこの二つの言葉です。本當にさうだと私自身も思ひます。さうしてさう云ふ兩親やその他の人たちの氣持も私にはよく分ります。皆は私のことを人を苦しめておいて何とも思はないなんて云ひます。何とも思はないどころか苦しくはたまらないのです。くるしくてたまらないのを我慢して自分の道に進んで行かなければならない、私の本當の心の奥底の苦痛は、誰一人何とも思つてはくれないのです。理智と感情は決して一緒には働かないものです。父さんや母さんのなさる事に就いてあれは正當だこれは誤だと云ふやうな批判は、獨りで何でも考へられるやうになれば――つまり一人前になれば誰でもすることです。けれども今直ぐ、あお父さんはあんないけないことをしたお父さんを嫌いにならうお父さんとは他人同樣にしやうと思つたつてさう單純に行くものではないのです。殊に親子とか兄妹だとかその他肉身の關係は實に復雜な絕對的のものなのです。誰が親や兄妹を泣かして氣持よがるものがありませう？　皆には、この理屈はよく分つてゐるのです。けれどもその考へ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

を押し進めてこちらの氣持ちを考へることなんかなしに直ぐ自身の方に引き戻して愚痴にしてしまふのです。物の考へ方がまるでもう根本から違つてゐるのです。

私が嫌がるのを無理に自分達の都合の爲めに結婚さした。もし私がをとなしい、何にも考へることの出來ない魂のない娘だつたらハイとをとなしく自分では少々嫌やな男だと思つても無理にでも辛抱したかもしれない。さうすると、親たちはじめ皆は喜ぶでせう。そして本當に孝行な娘だとほめるでせう。けれど自分はどうでせう。どんな馬鹿な娘だつて、いくら仕方がないとあきらめてゐたつて人がわい〳〵云つてくれるほど幸福だとは思はないでせう。

私はそんな嘘は自分と云ふものに對して本當に耻かしいことだと思ひます。きみちやんはさう思ひませんか、まるで他人の爲めに生きてゐるやうではありませんか。自分のものときまつた、何人も犯すことの出來ない體や精神をもつてゐながらそれで他人の都合や他人のためにその體や精神をむざ〳〵と委してしまふのは意久地がないと云ふよりは寧ろ生れた、甲斐がない生甲斐がないと云ふより他仕方がありません。

人間は誰でも自分より可愛いゝものはないと云ふけれどそれは本當だと思ひます。自分を犧牲にしてとか、汝の敵を愛せよとか、身命をなげうつて國家につくすとか云つてもそ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の實、さう云ふ人たちは、矢張り自分の死んだ後で幾千代の後までも、名を殘すことの出來ると云ふその人にとつてはこの上もない或る期待をもつてその大きな名譽心に馳られてゐるので結局は矢張り自分の爲めなのです。汝の敵を愛せよと云ふ敎へも結局は『尾を振る犬には手をあてられぬ』とか何とか云ふたとへをうまく利用したものと思へば間違ひがないやうに思ひます。それは本當に自分を愛し、又尊敬する人から見れば一番自分をふみつけたそして一番無理な、不自然な考へ方です。だから、油斷をすると直ぐに、逆戻りをするのです。人間が死んでからはどうなるのかは分らないぢやありませんか、それたのに立派な體や精神を折角自分のものとして與へられてゐながら他人の都合の爲めばかりにすりへらすと云ふことが本當に、肉體や精神を賦與された眞の目的に添ふものであるかどうかと考へて御覧なさい。直ぐに分るでせう。けれどもね、きみちやん自身に考へてもいゝしそれから周圍についてもいゝ、よく考へて御覧なさい。どんな些細なことでも自分がこれがいゝと思つてやらうとするでせう、そのときにすら〳〵と思ふやうに出來たことがありますか。あつてもそれは、極くわづかしかないでせう、また、つまらない、思ふとほうりに出來なくても大して困らないことなのでせう。自分が是非かうしたい出來なければ大變困ると云ふやうな自分にとつては重大なことはなか〳〵思ふやうにならないでせう？　そして

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

それは、そう云ふことを思ふ通りにされると困る人が屹度自分の近にゐてその人の邪魔で出來ないものです。

私の場合もそうなのです。私は自分の意志に依つてした結婚ではないのだから是非破壞せねばならないし私の兩親や叔父さんたちはそんな無鐵砲なことをされては困るので止めさせやうと邪魔するのです。勿論私は他の人が困るからと云つたところで自分が苦しいから無理にも破壞しました。自分の考へてゐるとほりにどし／＼やつてしまひました。それで一番困つたのは矢張り誰でもなく私を無理強ひした人達です。そしてその人たちの困るのは本當から云へば當然なのです。けれども嘘で固めた所謂世間の道德と云ふものは決してそれが當然だとは皆に思はせないのです。何にも頭におかずに考へて御覽なさい。長上――目上のしかもたゞ自分より年が上だとか親だとか云ふことを楯にして自分の都合のためばかりに僅かばかりの經驗とか何とかを無理な理屈にこぢつけて理不盡に服從させてもいゝと云ふやうな理屈があるでせうか。皆は私のことをわがまゝだとか手前勝手だとか云つてゐますけれども本當に考へて見ると私よりも、周圍の人たちの方がよほどわがまゝです。私は自分がわがまゝだと云はれる位に自分の思ふことをずん／＼やる代りに人のわがまゝの邪魔はしません。私のわがまゝと他人のわがまゝが衝突した時は別として、でなけ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

れば他の人のわがまゝを輕蔑したり邪魔したりはしません。自分のわがまゝを尊敬するやうに他人のわがまゝも認めます。けれども世間にはさう云ふことを考へてゐる人はそんなにありません。皆誰も彼も自分は仕たい放題なことをして他人にはなるべく思ふとほりなことはさせまいとします。自分は自分丈けのことを考へて行ふし、他人は他人の勝手にまかして置くと云ふのが本當なのですけれど自分と他人との區別をはつきりたてることの出來ないのが大低の人の惡い缺點です。それはその人たちが惡いのではなくて日本の所謂道德がいけないのです。今の日本の多くの人たちを支配してゐる道德は一つも本當のものはなくて皆無理な虛僞で固めたものなのです。だから窮屈なのです。話が一寸外れました。餘計なことは云はないことにします。今私の云つた自他の區別が出來ない人達だから、本當の意味の正しい個人主義だとか自己本位とか云ふことゝ自分を甘やかすわがまゝとか傲慢な專橫との區別がちつとも分らないのです。そしてまた、共同と云ふやうなことをもち出しては各自がわがまゝをすると共同が成り立たないから、相互に我慢しなければならないとよく云ひます。これもまるで根本から考へ方が違つてゐるからです。皆が皆他人にかゝはらずに自分は自分丈けのことをやつて行きさへすれば自然な最も自然な共同が出來ます。何のとりつくろひもないし自分を壓へると云ふやうな不快な感情なんかは少しもまじらな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

いから厭なくだらない爭鬪なんかは決して起らずに濟みます。けれども共同とか何とかかはいく云つてゐる人達はそんなことを云ひながら內々はみんな自分のいゝやうにしたくてたまらないのです。そして自分のいゝことをする爲めに他人に迷惑をかけることはさほどに思はないで他人のしてゐることが自分にかゝはり出すと、直ぐに邪魔をし出すのです。それも卒直にやればいゝけれど妙に道德とか習俗とか云ふものに囚はれてまはりくどい嫌味な愚劣な爭ひをしてゐるのです。何だか變な理屈になつて來ましたね、解りますか。

私は自分の自信を貫徹させるにあたつて一番に其處につきあたりました。誰でも皆さうなのです。併し私は他の多くの人たちのやうな、悧巧なずるいことは出來なかつたのです。私は何はさておいても服しなければならないと云ふやうな信念を少しも所謂道德に對して抱くことが出來ないのです。そしてまた、その輕蔑してゐるものに對して膝を折り曲げるにはあまりに自分に對する氣位が高かすぎるのです。他人が自分の行爲に對してどんなおもはくをもつかと云ふやうなことまで考へる程の餘裕が私にはもてないのです。そして私はそのことを決して惡いとは思ひません。私はとうとう凡てを排して自信を通しました。そして皆の一番尊敬してゐる、そしてまた私を縛するに最もたしかなものだと信じてゐた道德や習俗を見事ふみにじりました。話が大變に抽象的になりました。解りにくいでせう

私はもつと具體的にわかりやすく書く筈でしたのにこんな變なものになりました。もつと澤山書くつもりでした。今の氣持と、これを書きはじめるときごの氣持がすつかりはぐれてしまつたのです。書きたいことを思ふやうに書けないむしやくしやが先にたつてごうしても書けないから止めます。今度もすこし落ちついて書くつもりです。きみちやんには屹度解らないだらうとおもひます。自分ながら何を書いたのかまるで筋道がたつてゐないのが分るのですもの。もしきみちやんがこれを讀んで不服なことや解りにくい處があつたらかまはず突き込んで聞いて下さい。そうすればこんなしどろもどろな言ひ方でなくもう少しちんとした答が出來るつもりですから。氣持が落ちつきしだいに書き代へて送ります。でもきみちやんに私がどういふつもりでこんな手紙を書き出したかと云ふその私の心持だけでも分つてくれゝば大變うれしいと思ひます。

(三、二、二三)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『婦人解放の悲劇』に就て――野枝――

とうに『戀愛と道德』が單行になつて出る筈であつたが、あれだけでは一冊とするにはあまりに貧弱(量の上に於て)だと云ふ書店の意見から、その後雜誌(靑鞜)で發表したエンマ・ゴルドマンの『婦人解放の悲劇』と『少數と多數』になほ新に『結婚と戀愛』とゴルドマンの小傳を加へてやうやく出すことにした。なほ書店の要求を滿足させる爲めに自分は序の中に婦人問題變遷の歷史と云つたやうなものを書く筈になつてゐたのだけれど、そんなことは今の私には未だ〳〵荷が勝ち過ぎるし、それに書くと云つても、自分一個の(たとへ獨斷にせよ)見識でも確立しての上で、その動かない立場から批評的に書けるとでも云ふのならば兎に角、どうせえらい先生方の御本を參考してアチコチとぬき書きでもする位が落ちになりさうなので、それは止めることにした。それに未だ自分は實の處『問題の歷史』だとかなんとか云ふことに興味を持つてはゐない。自分に興味のないことはなりたけやりたくない。ただ私は現在自身が直接にブッカッタ問題として『戀愛』は女子の唯一

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の道德であり、所謂『結婚』は戀愛とはまつたくその性質を異にしたものだと云ふことをこれ等の論文に於て一層ハッキリ覺り得たのである。そして私のぶつかつた問題はまた現今わが國の社會に生存する幾多の若き姉妹たちの問題である。最も痛切な根本問題である。これは是非とも覺醒した自分等から實行し始めなければならない。然し自分等のすべてがほんとうに眞實な深い相愛生活を送らうと思ふと、これは實に容易な問題ではなくなる。一歩―二歩―三歩―と次第に深く進むにつれて根底に横はる性の問題を初めとして經濟問題、倫理問題その他さまざまの社會問題に自然と自分の眼を轉じなければならなくなる。そして『最近の將來が解決しなければならない今日當面の問題は如何すれば人は自分自身であると同時に他の人々と一つになり、全人類と深く感ずると共に各自の個性を維持してゆけるかといふことである。』と云つたゴルドマンの言葉を今更繰返して考へなければならない。自分等(Tと私)は日常生活のモトウとして『出來るだけ自己に忠實に』と云ふことを心懸け、そしてその爲めに努力してゐる。自分等は自分等の生活中からあらゆる虚僞を追ひ出し、自由にして自然な生き〳〵した生活を營まふと努めてゐる。自分達は今なるべく社會との交渉をさけてゐる。自分等は時々心弱くなつて無人島の生活を夢想する。自分等のやうにわがままでぢきムキになつて腹を立てたり、癪に障つたり、苦しがつたり、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

落膽したり、するものにはとても今の社會に妥協して、あきらめて easy-going な太平樂を云つて生きてはゆけない。全然沒交涉な生活をするか、進んで血を流すまで戰つて行くかどつちかだ。然し自分等は輕はづみに飛び出して犬死はしたくない。で、イヤ〳〵ながら我慢して先づ今の處なるべく沒交涉の方に近い生き方をしてゐる。然し自分等は自分等のやうに考へてゐるものが勿論自分等ばかりではないと考へる時、そこに非常な希望と慰藉とが與へられる。日本に於ける最初の眞實の革命の曙光がもはや遠からず地平の上に現はれると信じてゐる――否既に現はれてゐる。微かではあるが確かに現はれてゐる。自分等は決して落膽や絕望をしてはならない。來るべき眞實の生活の新生命は確かに自分等若き同胞の中に芽まれてゐる。やがて自分等はほんとうに立上つて戰ふべき日が來ることと思ふ。自分等は先づ知らず〳〵自分等にこびりついてゐる無智や因習と戰はなければならない。世間の氣の毒な人等はたま〳〵自分等を『新しい』と呼んでくれたけれど、自分などはその言葉を心から受取るには未だ〳〵中々舊い。もつと〳〵新しくならなければならない。自分は近頃『サニン』を讀み、高村氏の譯された『未來派婦人の婦人論』等を讀んでただ面白いと云つてすましてはゐられなかつた。自分等の Vital force の如何に貧弱に見えたことよ！ そして自分等の周圍にゐるかの青白い顏付をして、猫脊になつて、『白魚の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

やうな』指先でオチヨボロをしながら、碌そつぽ大きな聲も出し得ずに琴を掻き鳴らす姉妹等の如何にミゼラブルに見えたことよ！ そしてさういふ姉妹等と生活すべき運命を有する若き男性の如何に御氣の毒に考へられたことよ。自分の聯想はまたかの短髮の露西亞少女等を考へさせた。

自分は今この一小册子を若き兄弟姉妹の中に送るにあたつて、幾分なりとその人々の覺醒の糧にならんことを希望してやまない。『解放』と云ふのは髮の結ひ方をちがへるのではない、マントを着て歩くことでもない、まして『五色の酒』とかを飲むことではなほない。然し新しき服裝を笑ひ、女が酒を飲むことを恐ろしき罪惡であるかの如く罵つて高尚がつたり、上品ぶつたりしてゐる人等には愈々解放など云ふことはわかりさうもない。服裝は個性ある者には越味の表現であり、俗衆には流行である。酒は各人の單なる嗜好に過ぎない。いづれも眞の解放とはなんのかかはりもない。『解放は女子をして最も眞なる意味に於て人たらしめなければならない。肯定と活動とを切に欲求する女性中のあらゆるものがその完全な發想を得なければならない。全ての人工的障碍が打破せられなければならない。偉なる自由に向ふ大道に數世紀の間横たはつてゐる服從と奴隷の足跡が拂拭せられなければならない。』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

メレジユコーフスキー著
文學士 森田草平
文學士 安倍能成 共譯
―人としての部―森田譯
―藝術家としての部―安倍譯

忽再版

人及藝術家としてのトルストイ

並にドストイエフスキー

總クロース製美本◉肖像三葉入 全一冊 ◉正價壹壹圓五拾錢◉小包内地十二錢

此書は文明批評家として當今世界第一人者と言はるゝメ氏が、ト、ドの二翁を評傳したものである。

譯者森田草平先生序中に云『嘗て自分が文科大學に居た頃、此書を英譯で讀んだ。讀んで面白いと思つた。自分が西洋の小説を讀んで面白いと思つたのは、ドオデエのサッフォーである。論文では即ち此書である。其後サッフォーよりも面白い小説にはいくらも出會つた。が、メレジユコーフスキーの此書よりも面白い論文は一度も見た事がない。』**又云**『筆を執つて飜譯に從事する間は實際面白かつた。われを忘れて面白い。面白いと他人に言ふしが厭な位い面白い。』**又云**『著者の人生に對する批判もさる事ながら、藝術鑑賞の上に於ける洞察力に至つては、寧ろ怖しいものがある、若し未だ此書を讀まざる人にして此書を讀んだとすれば、必ずや其人の批評眼を一變したであらう。』

ゲーテ作
東北學院教授 増富平藏譯

悲劇 イフヰゲニエ

最新刊

全一冊函入美本 正價八十錢
挿畫二葉入 郵税十錢

◉不朽の文星ゲーテが、アガメノンの姫イフヰゲニエを主人公として、運命の重壓、良心の苦悶を寫せる名曲にして既にファウストのゲーテを知れる人は重ねてイフヰゲニエのゲーテを知らざる可らず。

◉一千七百七十九年、此劇がワイマルの帝室劇場に於て公演せられたる時、ゲーテは自ら篇中の人物オレストに扮して舞臺に立ちたりといふ。以て作者の此篇に對する自信と熱愛とを窺ふに足らん。譯筆亦謹嚴明快の極。

版元 東京神田區雉子町 **玄黃社** 電話本局二〇九番 振替東京七九九五 全國書店賣捌

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

AUGUSTE RODIN

L'ART

■現代の版畫特別號■

■ロダンに就て（未定）

有島生馬■

ロダンの藝術は佛蘭西の原著により全譯。挿畫として特別一枚刷三十五枚。

本文中刷入として三十五個を挿入す。

体裁は菊判假綴、紙質上、二百五十餘頁。

ロダンの藝術

アウグスト・ロダン
ポール・グセル 著

吉川淡水 譯

發行日 三月五日、（各書店にて販賣）

定價 一册六十錢――上下二卷に分つ時は各其半額（但し未定）

二卷に分ちたる時は下卷は二月十五日發行

■ロダン論――シモンズ――

高村光太郎■

發行所 小石川區西江戸川町五番 振替口座四三七三番 日本洋畫協會

大賣捌 東京堂 北隆館 東海堂

青年の中に
同志を求む

生活と藝術

定價拾八錢
郵稅拾錢

三月號

■街上不平……………………土岐哀果
■評論……………………相馬御風
■松井須磨子の價値……伊庭孝
■權威と個人主義…………加藤一夫
■評論……………………仲田勝之助
■背景……………………園三千夫

此一篇も隱名の青年の作品である。彼の席に依れば「背景は僕の自畫像の背景である。僕はこれらの背景の中に住んでゐる。從つてまたこの一篇は現代社會の一面相である」と。これらの背景に圍繞された一人の青年を想像してみることは、多少の興味を惹起せしある事であると信ずる。

■讀書狂……………………荒川義英
■圖書室の一隅より……矢口達
■冬日詩篇…………………西村陽吉
■主簿補の日記より……長澤武男
■革命家の最後……………奥野七樓
■新らしき歌………………青年百餘家
■MEMO……………………哀果生

發行所　東京市日本橋區檜物町　(振替東京五六一四)　東雲堂書店

一年分送料共金三圓

我等

特價三十錢 郵税二錢

短歌 二月號 募集

木下杢太郎……船室

北原白秋……詩

高村光太郎……未來派婦人の樂欲論

佐藤春夫……石井柏亭論

石井柏亭……途で會つた人達

平野萬里……ベルリンから

茅野蕭々……詩

森林太郎……雁

江口渙……腐肉

……水のあなたより

秦豐吉……紐（ストリンドベルヒ）

萬造寺齊……訣別（ズーデルマン）

綿拔瓢一郎……死の勝利の誤譯問題

竹友藻風……詩

高村光太郎……詩

募集短歌……

我等發行所

東京市本郷區駒込東林町百九十番地

岩波書店

東京市神田區南神保町十六番

振替東京一六二四〇番

“SAHURAN”

番紅花

創刊號

定價一冊參拾錢郵税貳錢

サフラン……森林太郎
プチニーの歌劇……原信子
私の命……詩……尾竹一枝
序の幕……小説……神近市
春の歌……歌……尾竹ふみ
美術に就ての雜感……武者小路實篤
春のすゑ……戯曲……小林哥津
幸福な町……イエーツ……なつき譯
サフランの香……小説……小笠原さだ
二人の歌……歌……八木さわ麗
海外通信……OPQ
雪夜曲……詩……蘭五三子
今日の歌劇……原信子
夜の葡萄樹の蔭に……尾竹一枝
「復活」劇梗概……松井須磨子
錦繪……雜録……小林哥津
雪のふる日……詩……管原初
自分の生活……手紙……尾竹一枝

挿繪

ロオトンイク 'Elles' の内より……五葉
Giacoma Puccini……一葉
マダム・バタフライ……二葉
「復活」舞臺面……二葉

發行所 東京市日本橋區檜物町 (振替貯金東京五六一四) 東雲堂書店

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

毎月一回
一日發行
一冊金二十五錢
郵税金一錢五厘

斯道唯一の演劇雜誌

■歌舞伎■

百六十五號（三月一日發行）

六册前金郵税共
金一圓五十錢
十二册同上
金二圓八十錢

近松に就て新發見 …… 伊原靑々園

筆者が其の劇史研究より見出せる巣林子の事實を發表す。文學と劇との歴史に取つて一大光明を齎らせるもの之れ。

延二郎の「權太」の型 …… 森ほのほ

歌舞伎座所演の一擧一動を詳叙し且つ故菊五郎の型を併記して比較研究として資料を提供せり。

鷗外博士のギヨッツ

は本號にて完結し「稲妻」は愈麗境に入れり繁俊氏の

默阿彌解題

靑々園の

京阪年代記

共に前號を承け室田の

無線電話

は狂言座と五代目菊五郎等を語り一外の

大風

は法廷審問の最頂點に至る

松井須磨子さんへ …… 岡田八千代

知名なる女文士が知名なる女優を月旦す。在りふれたる俳優人物評と選を異にする所あるは常然なり。

劇評の劇評 …… 一記者

二月興行については各新聞の劇評を抄出し批評を更に批評して觀劇通の指南車たるもの。

東京本郷湯島切通坂町書報社内

歌舞伎發行所

電話下谷四八四三　振替口座一八一〇六

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

第二卷第三號

エゴ

第三月號

三月一日發行
定價卅錢

星（脚本）　佐藤惣之助
知らない土地（脚本）　千家元麿
この頃（小説）　土屋小介
詩六篇　佐藤惣之助
詩五つ　千家元麿
感想　二人
彼と人間（小説）　岸田劉生
オーガスタスジョーン筆（挿畫）

發行所　東京小石川區西江戸川九　日本洋畫協會
編輯所　東京牛込區新小川町三丁目千家方　エゴ社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

貴婦人用萬年筆

之からの貴婦人のお机の上には必ず萬年筆が無ければなりますまい、新らしく、現代的の日記や手紙は萬年筆でなければ釣合ひません。

各種圖入萬年筆目録は
御申込次第御送呈致します

貴婦人には貴婦人向きの優美な上品な柔しい形の萬年筆があります、紳士向き又はビジネス用の萬年筆には貴婦人のお机の上には不似合です。

オノト萬年筆
無飾 金六圓以上各種
飾付 金七圓以上各種
送料各十二錢

オリオン萬年筆
無飾 金二圓八十錢
飾付 金三圓二十五錢
送料各十二錢

摸造品あり軸部のORION及びONOTOの名稱に御注意あれ

萬年筆用特製
『アテナ』インキ
ニオンス入 金貳拾錢
送料金拾二錢

東京日本橋通
大阪東區博勞町

丸善株式會社

京都三條通麩屋町
福岡市博多町上西町

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

春期

補助團會員募集

（規則其他は巻末にあり）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

豫　告

四月號は新しい作家を紹介するために小說號として出します。

執　筆　者（既に確定せる）

山田わか氏　　川田よし氏

松井靜代氏

濱野雪氏　　藤岡一枝氏

加藤みどり氏　　安田皐月氏

小林哥津氏　　伊藤野枝氏

外に野上彌生さんが久しぶりで創作をおのせ下さる筈です。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

編輯室より

□二月號で豫告いたしました小倉清三郎氏の「野枝子の動搖に現はれた女性的特徴」の續稿は病後の御勞れがまだなほらないため三月號に頂くことが出來ませんでした。

□エリスの「女性に於ける性的顚倒」はもう譯了になつて編輯係の手もとに參つて居ます。本月號で發表したいと思ひましたが、頁數の都合其他でとうと次に讓ることになつて殘念でした。四月號に附錄としてのせやうかとも考へて居ります。

□ずつと連載して參りました「イワノフ」もあと一回で完了になります。譯者から原稿の參るのが少し遲れたため、そしてそれが豫算以上の頁數があつたため、折角全部譯して下さつたのを一度に出すことが出來ませんでしたから、いつそのことゝ思つて、次に廻しました。途中で切つて少しばかり出すよりも一回だけ休んで、次の時全部のせた方がいゝと思ひましたので、譯者が折角御急ぎになつて全部御譯し下さつたのに對しては誠にすまないことでしたが。

□四月號は新しい女流作家を出來る丈多く紹介したいがために特に小説號として出すことにいたしました。既に極つてゐる執筆者は、

濱野雪[illegible]氏（蝙蝠）
川田よし氏（紅き木の芽）
山田わか氏（田草とり）
藤岡一枝氏（まぼろしの內より）
松井靜代氏（題未定）
小林哥津氏（宵月）
伊藤野枝氏（題未定）
加藤みどり氏（同上）
安田皐月氏（同上）

外に野上彌生さんも久しぶりての御創作をおのせ下さいます。二年前の四月に出しました小説號と比較して遙に進歩のあとを見せたいと骨を折つて居ります。

□今回の私の新しい生活を手紙やハガキでわざ〳〵御よろこび下さいました地方無名の諸姉にこゝで厚く御禮を申上げます。

□杉本正生氏は御結婚なさつて、國分氏と御改姓になりました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

□岩野清氏にはこの二月の十一日の夜に男のお兒が御生れになりました。おふたりとも御無事です。

□加藤みどり氏は今度日々新聞へ御入社になるさうです。(らいてう)

□私は此の頃女の自覺と云ふ事を痛切に感じます。女は何をするにも自己を欺き度い傾がありはしないでせうか。眞に自覺して自分の立場を悟つて社會に對して強い力を示し度い。殊に小說を描寫する態度に於て左樣感じます。其の點に於て此の頃讀過したので快く感じたものはデンマークの女作家カリン、ミヒアエリスの「離婚せる四十女の思ひ切つた告白(Dangerous age)アルヂエ・リントネルの姉妹篇でした。尙ほ突込むで描いてもいゝと思はれる點もありましたが兎に角日本の女作家の及ばぬ強い力を見出し得ました。

□私は又筆を執る度に思はれるのは自分の總ての智識の貧弱な事です。社會を知らぬことなどがそれです。その意味で私はこれから面と社會に向つて奧深く進んで行つて見度いと思ひます。

□女は又政事問題などにも餘り興味を持つて居ない者が多いと思ひます。譬へ興味は多少持つて居ても突きつめた研究とか見解とかを持つて居る者は殆どありますまい。今の問題のコムミツション事件なども對岸の火事位に思つて居るのです。吾々は何事に對してももつと眞面目にもつと研究し度いと思ひます。

□尙ほ私の今希望して居る事を申せば女が金子を得らるゝ機關を備へる必要のある事です。相當學問のある女の爲めに、それはあながち獨立者にのみではない人の妻になつて居る者でも相當な收入を望む者もありませうからさうした人々の爲めに資本を出して仕事をさせ、其の女の力を充分彰させて呉れる篤志家があつたらと思ひます。女の爲めばかりではない社會の爲めに何程の力になるか判らぬと思ひます。(みどり)

□今月號の從妹に宛てた私の手紙は實におはづかしいものだ。私はあのまゝでは發表したくなかつた。もう少ししつかりしたものにして發表したかつた。併し日數がせつぱつまつてから出さうと約束したので一端書きかけて止めておいたのをまた書きつぎかけたのだけれどもどうしても氣持がはぐれてゐて書けないので。胡麻化してしまつた。本當にいけないことだと自覺はして居る。この償ひとして來月號には本當に一生懸命に

書くつもり。何うか皆樣あしからず。

□時間が欲しい。もつと〳〵確りした智識が欲しい。中島氏譯の「サアニン」をよんだ。すつかり引きつけられたやうな氣持がする。感想を書きたいけれども充分に斷片的に浮んで來る一つ〳〵の考へを統一するに要する丈けの時間を持たない。一々しつかりした斷定を下すに躊躇しなくてもいゝ程の自信ある根底の智識を持たないのがはづかしいと思ふ。まだあんなものを批評するに充分な資格は自分にはないのだ。本當に立派な智識が欲しい。

□「新婦人」の一月號に私の談話が載せてある。然しそれは私がその雜誌の記者と稱する人に話したことゝは大變に相違した事柄である。下等な愚劣な向不見なそして輕卒な鼻持ちのならないことばかり並べてある。私は到底それを讀んで憤怒を覺えずにはゐられなかつた。又、多數の人たちに自分の談話としてそれが讀まれるのだと思つたとき私は涙がにじむ程の恥かしさを感じた。私はあの記者が手前勝手なことばかりを考へて私の思想を表現する談話に何の尊敬も注意も加へないでとりあつかつたと云ふことが不快でならない。私は矢張り物を言はないで書いてゐたい。もうほんとにおはなしなんかするもんぢやないとしみ〴〵思ふ。

（野枝）

□小島康治氏に。御葉書を拜見いたしまして、「月光」御掲載の「姦通罪を廢止すべし」の御論文は特に注意して讀みました。矢島楫子女史等によつて議會に毎年請願されるときく夫をも姦通罪に問へといふ説よりも寧ろ姦通罪を廢止せよといふあなたの御説に贊成するにしても私はあなたのさういふ御説によつて來るところのその根本の御思想には到底滿足いたすことが出來ませんでした。といふのは我國の婦人問題や婦人といふものに對する御考があまりに皮相な、淺薄なそして粗笨なばかりか、在來の一般男子に——女子にもですがありがちな習俗な多くの偏見と誤謬がそのまゝに含まれてゐるやうに思はれたからです。私にせよ青鞜社の他のものにせよ只今の處では婦人問題の思想的方面—内生活の解放といふやうなことに多くの力が奪はれて居ますので、實際的方面に屬する法律上のことにまではまだ及んで居りません。それで姦通罪といふやうなことに對してもまだ確固たる具體的な定見をもつて居りませんが、他日その方面に研究を進めました結果として、あなたと同樣に廢止を主張するやうなことがあるとしても、それはもつと根本的な思想から出たもの

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

だらうと思はれます。委しいことは他日の誌面に讓るとして只一言述べて御答といたします。(らいてう)

□らいてうの「火の娘を讀んで」の終の方二三頁一一行目の「彼女の行ふ處は何ものにも囚はれてゐないやうだがその頭は容易に因襲を脱しない」の次に「といふのはまだ十分自覺的でないからである。」とはいる筈です。

□だん／＼にのびた野枝さんのエレン、ケイ女史とエンス、ゴルドマン女史の論文を集めた「婦人解放の悲劇」がいよ／＼間近に出ることになつて只今校正中です。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

書籍紹介と批評

ロハベロツクエリス著、性的特徴
（小倉清三郎氏譯）

Man and Woman. Study of Human Secondary Sexual Characters. の譯である。日本の學界や文壇にはエリスの名はあまり廣く聞かれない時にあつて、この書だけは女性研究者や婦人問題の論者達が是非讀まねばならぬものとして可成り多くの人々に知られてゐる。紹介者もずつと以前この書を手にして讀みたいとは思ひながらつい横文字に骨が折れて、二三箇所拾ひ讀みをしたまゝになつてゐたのを、今度性的生活の研究を專門にしてゐられる小倉清三郎氏の勤勞によつて飜譯され、始めて委しい内容に接することの出來たのは何よりうれしいことだつた。同氏は性的生活の研究者である外に、特に兼ねてよりエリスに深き尊敬と興味とを有し、その影響を受ける處も少くないのだから、この書の譯者としてこれ以上適當な人はないと言つてもいゝ。

「譯者の挨拶」中にも斷つてある通り、これは全譯ではない。或部分は省略し、或部分は大に縮め、或る部分は少しく縮め、或部分ばそのまゝ譯したのださうだ。性的特徴と云へば身心の構造及作用に於ける男女の種々なる相違特徴をいふので、直接生殖に關係する機官及作用を第一義とし、其他を第二義のものとするが、本書に於て取扱はれる處はこの第二義の性的特徴なのである。この研究は以下十八章に分けて記述されてゐる。第一章、前置、第二章、問題の扱ひ方、第三章、身體の成長及び割合、第四章、骨盤、第五章、頭部、第六章、感覺、第七章、運動、第八章、知的活動、第九章、新陳代謝、第十章、内臟、第十一章、女の官能に於ける週期、第十二章、催眠現象、第十三章、女の感動性、第十四章、藝術心、第十五章、病的心理現象、第十六章、男の變化的傾向、第十七章、出生、及び死亡率、第十八章、結論。

紹介者はその結論に於て著者の云ふ處を非常に面白く思つた。その中の二三を擧ぐれば、女はより多く子供に近いが、發達しない男ではない。子供は成人よりもより高い進化の度合を示してゐることもあるとか、次第に女性化することが或意味で進歩であるとか、男は自然が女を保護したに對し、かゝる特別の保護を女に與へた自然と特別の保護を自然から受けてゐる女とに仇を報いて來た。女がより多く生殖の事に氣を取られてゐる中に、男は地の上をさまよひ歩き、絶えず自然と戰ふうちにその趣好を鋭くし、其精力を鋭くして來た。かくて男は自然を征服すると同時に、多くの場合に於て女を征服して來た。女にとつて最も都合のよかつた

社會はこれまでの經驗によつて判斷すれば好戰的傾向の未だ强く表はれない頃の原始的社會であつた。甚だ好戰的なる社會及文明の社會と稱せられ男の變化的傾向が生み出した人爲的產物が重んぜられる社會は女の自由と發展とにとつて望ましい社會ではない。將來の希望は男性的要素と女性的要素とを共に發達させることにある、或る狀態に於て母となることが罪惡と考へられてゐる間は人生に於ける女性的要素がその當然受くべき尊敬を受けてゐるとは云ひかねるといひ、最後に我々は自然の世界に於ける事實に對し、甚だ謙遜な保守的態度を取るに至つたと述べてある。私共婦人の最も自然なそして自由な幸福な生活について日夜色々のことを思はせられてゐるものにとつては殊に必讀を要する書物として考へさせられる處が多かつた。

なほ一つうれしかつたのは譯文が至つて平易、親切で、通讀するに一つとして難解の箇所を見出さなかつたことである。（らいてう）

（丁未出版社發行
定價壹圓五拾錢）

□法學博士鶴田薫氏著『婦人の心得べき法律』

法律上の知識の缺乏から悲境に陷る婦人の多いのに同情して我國の現行制度中、特に婦人に密接の關係あるものを極めて平易親切に述べられたもので、何人にも理解するに容易であるのみならず、各種の屆出の書式迄も附せられてゐるから、家庭に備へて便利も多からう。婦人問題の第二義的方面即ち實際的方面を論ずるものはもとよりだが、それよりもなほこの種のものは廣く一般婦人の必讀を望みたい。（らいてう）

（定價六拾錢
雄辯會發行）

□未來

年四回刊行の「未來」の第一輯が出た。其題言に曰く、「未來は在來の自然主義が我等を却つて或狹き限定内に置き、我等の精神が自由且自然に向はんとする方嚮を遮りたるに反し、此桎梏中より吾人の精神を取返し吾人の思考吾人の生活をして更に增大せしめんとする目的を有す。即ち吾人が平俗の生活中日々に失ひつゝある貴重の物をして發達せしめ、念々の渴望をして飛翔せしめ、吾人の生をして無限ならしめんとするにあり。吾人の爲さんとするところはすべて更新にあり、吾人の藝術は虐げられし藝術の意義を最もよく闡明し、謙虛に、熱烈に、叡智的に、所信を遂行すべし」と。三木露風、川路柳虹、柳澤健、山宮允、西條八十、增野三良、山田耕作、灰野庄平、新城和一氏等其（個々の精神に於て傾向を等しうする）詩人達の詩と論文を集めた極めて感じのいゝ贅澤な

ものである。（定價六拾錢 東雲堂發行）

□婦人と道德 エレンケイ女史著 本間久雄譯

エレン、ケイ女史の「戀愛と道德」「女の道德」「將來の女」「所謂古い女」の四論文を譯したものである。婦人問題に興味を持つ方々は讀んでおくべき書物である。殊に婦人としては是非讀むべき書物であらう。（定價八十錢 南北社發行）

□兄と弟 モオパッサン著 水上齋譯

モオパッサンの短篇は大分紹介されてゐるが長篇はあまりこれまで紹介されてない。これは「女の一生」の次に現はれた彼の長篇である。譯者の言によれば彼の話中で最もすぐれたものであるさうだ。その譯は直ちに原書から一字一句の間違ひもなしに譯したと云ふ自信のあるものだ。兎に角おもしろく讀まれる小說だ。一讀をおすゝめする。（定價壹圓二十錢 植竹書院發行）

寄贈書籍

一、婦人の心得へき法律（定價六拾錢）鶴田蕭著 大日本雄辯會發行

一、新家庭講話（定價八拾錢）小柴武著 大日本雄辯會發行

一、兄と弟（モーパッサン）（定價壹圓貳拾錢）水上齋譯 植竹書院

一、ポケット世界地圖（定價壹圓貳拾錢）開成館發行

二月號寄贈雜誌

三田文學	帝國文學	早稻田文學	中央公論	
白樺	生活と藝術	近代思想	我等	
ホトヽギス	層雲	假面	エゴ	
新人	アララギ	第三帝國	人生と表現	
美の廢墟	新思潮	海峽	蛇の舌	
激	六合雜誌	歌舞伎	心の花	
婦人評論	女學世界	みづゑ	藝文	
モザイク	新佛教	中央文學	秀才文壇	
關西藝術	珊瑚	婦女新聞	サンデー	
塔	現代の洋畫	女學雜誌	新女界	
處女	東洋哲學	新潮	月光	

靑鞜社概則

第一條　本社は女子の覺醒を促し、各自の天賦の特性を發揮せしめ、他日女流の天才を生まむ事を目的とす。

第二條　本社を靑鞜社と稱す

第三條　本社の事務所を東京府下巣鴨町一ノ一六三に置く

第四條　本社は係員、社員、贊助員よりなる。

第五條　本社の目的を達する爲め左の事業をなす。

一、毎月一回機關雜誌靑鞜を發刊すること。「靑鞜」には係員、社員、贊助員の生活及思想を發表す。(但し補助團員の寄稿を發表することあるべし。

一、圖書出版

一、時々係員、社員の修養及研究會、並に事業上の相談會を開くこと。

(但し贊助員は出席隨意たるべし)

一、毎年一回大會を開くこと、大會には贊助員を招待し講話を請ふことあるべし。

一、時に旅行を催すこと。

第六條　係員、社員、贊助員は女子に限る。

一、本社の事業を達するため別に補助團を組織す。

第七條　係員は本社の目的に贊同するのみならず。本社の事業を自己の生命とするものにして專ら幹部にありて、直接本社の事業に從事し。自己にその責任を負ふものとす。係員は毎月「靑鞜」の配布を受く。

第八條　係員は在京社員の中より選擧す。

第九條　係員は四人とし、内二名は經營に、他の二名は編輯に從事す。

第十條　毎年九月在京社員會議を開き、係員を改選す。但し再選することを得

第十一條　係員には本社の經濟の許す限りは其勞力に對して多少の報酬をなすものとす。

第十二條　社員は本社の目的に贊同するのみならず本社の事業を自己の生命とするものにして雜誌「靑鞜」の配布を受く。

第十三條　社員たらむことを希望する者は住所、姓名、年齡の外に履歷の大體と現在の境遇と入社の動機に十枚以上の原稿と(小說、戲曲、感想、詩歌、評論、飜譯いづれにてもよろし。)最近の寫眞とを添へ本社宛申し込まるべし。

第十四條　贊助員は本社の目的に贊同し、雜誌「靑鞜」に寄稿することを快諾せられたる文壇の諸先覺とす。贊助員は毎月靑鞜の配布を受く。

第十五條　本社の事業を經濟的方面より助力するものを補助團員とす。

第十六條　補助團員は補助團規約によつて募集す。

雜誌規定

■毎月一回一日發行
■定價一册金貳拾五錢(郵稅壹錢五厘)
■前金購讀料(四ヶ月分)壹圓(六ヶ月分)壹圓五拾錢(八ヶ月分)貳圓(十ヶ月分)貳圓五拾錢(一ヶ年分)參圓
■廣告料(一頁)特三十五圓、一等二十圓、二等十五圓、三等十圓、(半頁)七圓
■振替貯金口座は(東京二一一一六青鞜社)に拂込まれたし。
■郵券代用は一錢切手に限る(但し一割增のこと)。
■編輯事務、圖書雜誌、補助團會費拂込、廣告申込、交換廣告は青鞜社へ。
■雜誌購讀販賣に關する一切の事務は尙文堂へ。
■原稿〆切期日は毎月十日限とす。

大正三年二月二十六日印刷納本
大正三年三月一日發行

東京府下巣鴨町字巣鴨一二二七
青鞜社內
編輯兼發行人　中野初
東京市麴町區飯田町五丁目六番地
印刷人　中山千二
東京市麴町區飯田町五丁目六番地
印刷所　大正社

禁轉載

發行所　東京府下巣鴨町字巣鴨一二二七　青鞜社　振替東京二一一一六番

發賣所　東京市神田區南神保町十六番地　尙文堂書店　電話本局[illegible]番　振替東京一九[illegible]番

會員募集

青鞜社補助團規約

一、青鞜社補助團は青鞜社の事業を完成せしめんがために經濟上の補助をなすを以つて目的とす

二、本團は其目的を遂行せむがために理事一名、外に會計主任及係員を置き一切の業務を處理せしむ。

三、本團は左の方法により九月一日より十二月卅一日迄會員募集をなす。

1、甲種會員　一ケ月會費　壹圓

2、乙種會員　一ケ月會費　五拾錢

四、會費は大凡二ケ年間確實なる銀行に預金し、其後に於て全金額を青鞜社に寄附するものとす。青鞜社はこれをもつて出版事業を開始す。

五、本團の會員たらむとするものは其目的に賛同し、第三條の會費を入會の月より滿貳ケ年間納むるものとす。

(但し會費領收は青鞜紙上に發表し、別に領收書を出さず)

六、本團は會員に對し青鞜社發行の機關雜誌「青鞜」を毎號贈呈す

七、甲種會員には會費全納後なほ滿貳ケ年間は雜誌「青鞜」と青鞜社出版圖書とを其都度贈呈す。

乙種會員には滿貳ケ年間雜誌青鞜のみを贈呈す。

八、本團會員は甲種なると乙種なるとに拘らず、女子に限りて「青鞜」に寄稿し得るの特權を有す。

但し寄稿が二回以上「青鞜」紙上に掲載されたる場合は本人の希望により相當の手續きを經て青鞜社の社員たる事を得。

九、入會申込者は期日内に左の書式により府下巣鴨町、一一二七青鞜社内青鞜補助團宛に申込まれたき事。

會費は毎月五日迄に振替口座東京貳壹壹壹六青鞜社内補助團宛に拂込まれたき事。

但し會費未納者には本團より集金人を差向くる筈。(證券代用一割增)

一〇、會費は大凡三ケ年間確實なる銀行に預金し、其後に於て全金額を青鞜社に寄附するものとす。

一一、會計報告は年一回以上便宜の方法を以て會員に發表す。

一二、この規約は理事、會計主任、係員によつて事務の細則を定め、又會員多數の意見によりて變更する事を得。

理事　保持白雨

會計主任　岩野清

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

近刊豫告

平塚明序
伊藤野枝譯

——三月十日發賣——

婦人解放の悲劇

新形總洋布裝
挿畫肖像二葉
定價金六拾錢
送費金六錢

エンマ・ゴルドマン女史とエレン・ケイ女史の論文を集めたものです。「あらゆる偏見と傳説と習俗の羈絆を切斷し、自己心内の新生を創始」せんとする方々に一讀を御勸めします。（譯者）

發行所　東京市日本橋區檜物町九（振替口座五六一四番）　東雲堂書店

米國ハヴェロツク エリス原著

相對主筆 小倉清三郎和譯

性學界唯一の名著

最新刊

性的特徴

菊判布製全一冊 圖入

定價一圓五十錢

送料十二錢

譯者の挨拶の一節に曰く

爰に性的特徴といふのは身心の構造及び作用に於ける男女の種々なる相違特徴を申すのであります種々なる點に於て男性には男性的特徴があり女性には女性的特徴があります……性的特徴には第一義のものと第二義のものとがあります本書に於て取扱はれて居るものは第二義のものであります

婦人問題を論ずるにもせよ其他凡て男と女とを對立させて考へて見ねばならぬやうな問題には少くも一應は性的特徴の研究を參考して置かねばなりますまい多くの社會問題の根底には常に男女の相違てふ事の横りありて此點を度外視しては社會問題は到底滿足に解決し得ることは出來ますまい、「エリス」先生の「男及び女」即ち本書は既に各國語に譯されまして今のところでは最大の權威を有する著述なのであります

男女兩性の科學的研究!!!

本書は最近の讀書界に於て最も著るしき注意を以て迎へられつゝあるものゝ一なり

書齋の重寶

●リンコーン物語 櫻井鷗村著 定價一圓二十錢 送料八錢

●校訂略本 八犬傳 小形六號字カナ付 定價一圓二十錢

●歐洲見物 櫻井鷗村著 定價一圓七十錢 送料十二錢

●校訂略本 弓張月 小形六號字カナ付 定價一圓

東京市麹町二丁目 丁未出版社 振替貯金口座東京七八四七

黒猫座

第一興行

三月
一日(日)
二日(月)
三日(火)
四日(水)
五日(木)
毎夕六時開演
於有樂座

▲**戀愛三昧** ―三幕―
シュニツレル氏作
森鷗外氏譯

▲**髑髏小町** ―一幕―
林和作
演藝畫報所載

▲觀劇料
特等 一圓五十錢
一等 一圓二十錢
二等 一圓
三等 四十錢

俳優
守田勘彌
中村東藏
市川三吉
市川壽美太郎
坂東多三郎
勝見庸太郎
佳田良三
武田正憲
林和

林千歳
和泉房江
渡邊芳子

舞臺監督
林和

麻布區霞町十七番地
黒猫社
電話芝一九四三

三月一日發行

アララギ

定價 貳拾錢

第七卷 三月號 第三號

□路上の泥（短歌）……平瀬泣崖
□鴫（短歌）……平瀬百穂
□衛戍病院より（短歌）……並樹秋人
□暗き家（短歌）……原あさを
□雪ふる夜（短歌）……中原しづ子
□旅館の夜（短歌）……金原よしを
□沈默の湖（短歌）……竹下美代子
□感想……河西青五
□短歌雜論（中澤臨川氏に與ふ外數項）……齋藤茂吉
□ビヨルンソン一論……橋田東聲譯
□野は今は（短歌）……島木赤彥
□峽驛の葬禮（短歌）……中村憲吉
□七面鳥（短歌）……齋藤茂吉
□柩を抱きて（短歌）……古泉千樫

短歌
中島哀浪　齋藤柚雨　湯本政治
都會詩人　杉島梧風　結城哀草果
平沼ひさし　岩井綠汀　飯山津淚男
兩角七美雄　榛葉胡鬼子　沖鹽正光
柳本城西　吉川かすみ　篠田祥治

□同人募集□

東京本所南二葉町廿三古泉千樫方
アララギ發行所

Digitized by Google

京都帝國大學文科大學長

文學博士 松本文三郎先生三大名著

佛典の研究

松本博士は佛典の本文批評に於て實に日本學界のオーソリチー也多年その薀蓄を傾けて研究せられたる佛典已に幾十種加ふるに輓近燉煌その他に於て發掘せられたる佛典の研究は正に先人未到の新説なりとす佛典の眞僞を如何に辨別し經論の精神を如何に會得すべきかに心を勞する人まづ此書を一讀せざるべからず

菊判箱入
定價九拾錢
郵税八錢

増補 宗教と哲學

本書全篇十有四章まづ筆を「釋尊は何を說きしか」に起し「宗教と道德」「研究と信仰」等次第を逐うて遂に健全なる宗教の基礎は哲學的論據に在ることを說明し延いて老莊程子の支那哲學に論及す惟ふに病弱なる現代の思想界は此書によりて元氣の回復を求め得む乎

菊判箱入
定價七拾錢
郵税八錢

彌勒淨土論

彌勒淨土と阿彌陀淨土とは實に佛教の淨土思想を代表しつへき二大信仰にして又實に二大勢力たりしなり然るに其の半面は阿彌陀淨土の闡明によりて光輝を放てるあるにも拘らず他の半面は彌勒淨土の埋沒によりて今尚ほ暗黑に歸せりこれ豈佛教史上の一大缺點にして又實に佛教界の一大恨事ならずや松本博士こゝに見るありてその專攻する學科の立脚地より彌勒淨土の由來淵源を詳論し茲に佛教の淨土思想研究は完璧を成せり今にして何人か又此の新研究を味はずして恣に佛教の淨土思想を談ぜんとするものぞ

菊判箱入
定價一圓
郵税八錢

東京小石川區原町 貯東京一五六八六 丙午出版社
東京小石川原町 貯東京一三五三 鷄聲堂

月刊美術雑誌

みづゑは本邦最古にして且唯一の水彩畫専問の研究雑誌なり

水彩畫を描く人は勿論こ好せらるゝ諸氏は一日も本誌をを坐右に欠く可からす

みづゑ

三月三日發兌

第百九

送料共廿五錢

□BANFF BRIDGE（水彩畫原色版）……ROBERT.W.ALLA
□霧の朝（水彩畫原色版）……南薫造
□静物（水彩畫原色版）……相田直彦
□曇りの海（水彩畫原色版）……水野以文
□風景（水彩畫寫眞版）……舟木忠三郎
□紙すき場（水彩畫寫眞版）……望月眞三
□日本水彩畫會及春島會々友作品數葉（水彩畫寫眞版）
□下澁谷より……岡田三郎助
□青色に就いて……丸山晩霧
□英國の水彩畫……鵜澤四丁
□繪畫論……武田雨水
□題未定……戸張孤雁
□研究所だより
□雑記帳より……佐藤工志
□奈良より……佐竹草迷宮
□六島の旅……赤城泰舒
□新三郎物語……鵜澤四丁
□追憶の傳説……磯萍水

發行所　東京小石川關口駒井町三　振替口座東京六九六三番　春鳥會

Digitized by Google

第二十卷 第三

帝國文學

定價 金二十錢　　郵稅 一錢五厘

三月號

△特に藝術的と云ふこと（評論）……石坂養平
△誤られたるイプセン（評論）……片山孤村
△蘇生（小說）……上野竈太郞
△美術品と文學（評論）……後藤末雄
△魔術（イエツ）……山宮允
△戲曲クライストの最後（ボガレンツ）……成瀨無極
△鬱幽（短歌）……山田檟榔
△空の彼方（短歌）……細谷明
△戲曲海鷗（チエエホフ）……伊東六郎
△二月の劇壇（評論）……久米正雄
△二月の文壇（評論）……石坂養平
△藝術座に就いて（評論）……灰野庄平

京橋 大日本圖書株式會社 銀座

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

假面

定價三十錢　郵稅金二錢

第三卷第三號　三月號

挿畫 青騎士派 カンジンシキイ フランツ・マルク 木版畫五圖!!

ハウプトマンとニイチエ主義の哲學（ヘルマン）……松田良四郎
第一の涙（歌）……嵯峨秋子
法苑林敎話（詩）……日夏耿之助
春山之霞壯夫（戲曲）……森口外里
鈴の香（詩）……西條八十
大喜悅！（小說チエエホフ）……伊東六郎
黑き鳥（歌）……松田鶴子
京の一夜（小說）……竹內逸
フロオベル研究（評論）……後藤末雄
舞臺裝置劇 黃ろい響（七幕）……カンジンスキイ

假面社編

近代評傳叢書

第一篇 吉江孤雁 モウパッサン

第二篇 西條八十 メエテルリンク

珍頗美本　定價五十錢　郵稅金六錢

發行所　東京市外西大久保百三十一　假面社

發賣元　東京神田錦町一丁目十九　中興館　振替東京四一二三番

Digitized by Google

毎月一回
一日發行

珊瑚

定價金廿五錢
郵税一錢五錢

第一卷　三月號　第三號

ラインハルト　片山誠二
感想（メレジユコフスキイ）　野田武彦
小曲（アンリ・ド・レニエ）　竹友藻風
ドクトルワムシユ先生（フリッツ・ミユレル）　岩井尊人
象（レーミゾフ）　馬塲哲哉
いのち（エフワ・コルラニ）　山本輝子
純なる胸（短歌）　佐久間白萩
ちいぜん小母さん（カミヨンスキイ）　二關壽郎
小兒十字軍（マルセル・シユオブ）　藤田富士子
涙の鴨（ブンブイセフスキイ）　松永秋雄
歌　龜岡一二美子等

發行所　東京南千住九四五　電話下谷五八〇七番　珊瑚社

心の花

第十八巻　三月號　第三號

契沖の狂歌と若沖の書簡　新村出
新百人一首新譯　忠田義秀
病み臥して　佐々木信綱
まことの我　三浦守治
眞珠の輿　原田謙次
お歌さん　阿部たつを
盲むたる姉妹三人　竹友藻風
小曲八つ　久保正夫
愛蘭宗教傳説　つのかみ生
亡き父西薇山　白岩つや子
奧　石榑千亦
曙會記事　澤弌

定價一部金二十錢・半年前金一圓・一年前金二圓税共

東京日本橋區本石町一ノ一　竹柏會出版部

電話本局五一七〇番　振替東京四三〇〇番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

自畫像

創刊號

■表紙畫（ゆきを）

ウイリアム ジエームス及び其思想（評論）　北落師門

畫かきの心（感想）　ゆきを

中性（創作）　久保勘三郎

ラヴィプロフォンド（メーテルクンカ）　豊島與志雄

白き衣を纏へる女（シニツラー）　新關良三

おのゝく灯影（詩）　菊池香一郎

アリアーンと青髯（三幕）　木村幹

散大せる瞳（論想）　岡田耕三

■四月一日發行　（定價二十五錢）

■自畫像社同人

發行所　東京下谷上根岸百十一　自畫像社

發賣所　東京市神田區南神保町十六番地　電話本局四二五四番　尚文堂

毎月一回　一日發行

創造

▲愛の嘆美（詩）　高村光太郎
▲悲哀の底（詩）　人見東明
▲街頭哀歌（詩）　福田夕咲
▲ロマン・ロオランと云ふ人（評論）　内藤濯
▲ある女の手紙（小説）　辰己善次郎
▲ラツビ・エスチ（小説）　島村民藏
▲春の曙の夢（戯曲）　秦豊吉
▲ホイツトマンの事（感想）　福士幸次郎
▲美以上の美（散文詩）　山村暮鳥
▲人生の漂浪者（感想）　佐野袈裟美
▲毒藥の壺（感想）　相馬御風
▲編輯の後（感想）　同人

詩歌　尾瀬哀歌　田邊信太郎　石川才三郎　田邊若男　大熊信行　高山辰三　磯ヶ谷紫江　津端修　美川康　沖鹽正光　松岡朝二郎　野田段々山　青木重子　上村千草　南くに子

戀ごゝろ

●獨目の世界を創造し、踴躍を自由に試みつゝある人見東明の第二詩集なり。「夜の舞踏」以後の傑作百余篇を收め近く美裝して出づ、この集を貫く一脈の生氣はあだかも天日の如く高くして淸し。（定價七十錢）

發行所　東京小石川區雜司ヶ谷町百卅　創造社　發賣　東京神田表神保町　東京堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

近代思想

第二巻第六號

定價金十錢

三月號

春（短歌）……安成二郎
反逆者の心理（評論）……大杉榮
『第一步』を讀む（評論）……安成貞雄
ショウの警句（飜譯）……寒村
寢臺の上にて（感想）……土岐哀果
胡麻鹽頭（雜錄）……貝塚澁六
堺氏に答ふ（評論）……伊庭孝
放火犯の死（脚本）……荒川義英
大久保より（雜錄）……同人
人間屠殺所（小說）……ラムスズス 佐藤緑葉

東京府下大久保町
近代思想社
振替東京一七一六三

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

■美術劇場試演■

ストリンドベルグ劇

場所――市外下澁谷福澤桃介氏邸内、美術劇場試演場
（市内電車廣尾橋、山の手線ゑびす驛下車）

美術劇場飜譯

熱　風（淸念劇）一幕

伯爵令孃（社會悲劇）一幕

平和を失へる人（傳奇劇）一幕

火あそび（社會喜劇）一幕

舞臺意匠背景擔任、美術劇場「演劇美術研究會」

時日――三月六七八ノ三日間午後正五時開幕

會費――金七十錢

このたび私共の發起しました小さな劇團の最初の試みとして、一昨年の春亡くなつた北歐の劇星アウグスト、ストリンドベルグの代表的な一幕物四種することになりました。それにつき、故人が生涯の理想であつた「内輪の劇場（インチイマ、テアテルン）」を其儘に寫したやうな郊外の小さな劇場で靜かな春の一夜を皆樣と御一所にこの小さい乍ら味ひの變つた藝術をゆつくり味ひたいと存じますお誘ひ合されて是非おいで下さるやうお願ひ申します

一九一四年三月

美術劇場同人

カフヱープランタン

此度當プランタンは二階を擴げて食堂を新設致しました一度御來遊を願ひます、私の嗜好は私の店を街中と云ふ感から離し度思つてました、そして此度新設した食堂は多少成功したと存じます。

海邊の様な氣持のするヴエランダで日吉町の暗い通を見下ろしながら召上るコーヒーは趣味の無いものではありません。

階下は著名な文士書家の落書が壁の殆全部をうづめてます、不用意の間にそれ〳〵面目が表はれる所或は極端に皮肉なカリカチユアー一度では見つくせぬ程興味のあるものです。

ドーぞ御來遊の程祈ります、そしてプランタンは常に趣味の上に立つてる事を御覽下さい。

カフヱープランタン
松山省三

營業時間　午前十時頃ヨリ午前一時頃迄
テーブルドツト　金壹圓
ランチ　午前十一時ヨリ午後二時迄及午後五時ヨリ七時迄
A 三十錢　B 五十錢
ハンバクステキサンドウ井ツチ
カキフライサンドウ井ツチ　金十二錢

年末年始の御贈答になる様茶菓券を發賣致します

Digitized by Google
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

英國クレイク婦人著

文學士 山崎直三譯

（新刊）

家庭の好讀物

●最も健全なる修養小說

理想の青年

ジヨン・ハリファックス

ジヨンは意思の確固なる青年なり、その友フアイネスは高尙なる思想に富める青年なり、その兩者の麗はしき友情に、讀むものをして覺えず淚を催さしむ。此の二つの好青年を中心として、英國紳士の面影を遺憾なく語れり。

あゝ、輕薄なる現代に飽ける人々は、此の書を讀みて至誠なる感情を味ひ給へ

四六版七百五十頁
全頁大挿畫數葉入
總クロース
函入美裝
定價壹圓五拾錢
送料十二錢

發行所 東京市神田區南神保町十六 尙文堂書店 電話本局四二五四 振替東京一九三四四

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

自由講座叢書第一編

定價金六拾錢　郵稅一册金四錢

東京神田南神保町十六　尙文堂發賣

二六新聞の批評

「近頃になつて文藝趣味は人間の本來性であるが如くに擴まつて來た。そして必然の要求として見られる程に文藝に對する渴望は若い人達の感性を湧き立たしめて來た。此の要求に副ふ目的で生れて來たのが自由講座である。(自由講座同人曰く、自由講座の成立には今少し積極的の目的があります。)本年三月産聲を揭げてから以來每週二回づゝ、人も我も許した大家の講演が開かれて來た。其の講演には隨つて充分の價値と權威が橫溢してゐる。その講演を集めたものが即ち此の書物であつて、

△露西亞に於ける文藝と實生活(昇曙夢)

△メレディス論(平田禿木)

△イブセンとドストイフスキイ(片山伸)

△『サラムボオ』(生田長江)

△ドストイエフスキイ研究(森田草平)

△チェームスの哲學(中澤臨川)

△建築美に於ける材料の謎(山崎樂堂)

△問題としての性欲(野上臼川)

の八篇が收められてゐる。眞面目な文藝の研究者ばかりでなく、苟くも文藝に趣味を有つたものは、好箇の參考書であり、文伴侶である。固に此の叢書は引き續いて續篇を出すそうである。」(十一月十八日)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

增補三版

近代十四大家の十四英譯集

MOMENTS WITH MODERN GREAT WRITERS

(一名 英文近代文學)

—(脚註及作家略傳)—

文學士 野上臼川氏 校訂

四六紙裝 二百二十二頁
定價四拾五錢
送料四錢

Andreyeff: Ben Tobit
Tolstoi: Where Love is, God s
Oscar Wilde: Model Millionaire
Strindberg: Half a Sheet of Papers
Mérimée: Taking of the Redoubt
Wedekind: Rabbi Ezra
Pierre Loti: Mme Chrysanthéme
Tchékhoff: Sleepyhead
Maupassant: Bertha
Gorki: Khan and His Son
Anatole France: Our Lad'y Juggler
Turgeneff: The Tryst
Bernard Shaw: How He Liedto Her Husband

東京市神田區
南神保町十六
尙文堂書店
電話本局四二五四
振替東京一九三四四

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

四版

小說と脚本の飜譯集

邦譯近代文學

野上白川氏譯

津田青楓氏裝釘
表紙鳥子六色刷
箱入四六版美本

萬朝報批評

凝りに凝つたる裝飾と相俟つて翻譯全盛時代の現文壇に一個の光帶を放下したる觀なくんばあらず。斯くの如き好譯文の盛んに出版されて貧弱なる我文壇の内容の日一日と豐富にされ行くを見ては吾人は歡喜の聲を禁ずる能はず

紙數五百三十頁
定價壹圓貳拾錢
內地小包料八錢

謎の女（オスカア・ワイルド）
氣味のわるい求婚者（ウェデキント）
ベルタ（モオパッサン）
マルセィユ歌（アンドレーエフ）
木乃伊の片足（ゴーチエー）
汗父子（カアシン）（ゴーリキイ）
あひびき（ツルゲーネフ）
マダム・ピィルソン（ミユッセエ）
ねぼすけ（チェーホフ）
マリヤの手品師（フランス）
七人の姫（メエテルリンク）
母の愛（ストリンドベルヒ）
彼はなぜ彼女の亭主にうそをついたか（シヨオ）

東京市神田區南神保町十六
尚文堂書店
電話本局四二五四
振替東京一九三四四

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

夏目漱石先生序　野上彌生子譯

傳說の時代

▼▼最新刊▲▲

菊版美裝約八百頁
挿入寫眞五十枚
希臘古彫刻等皆珍品
定價金二圓
郵稅金十二錢

文藝界の大寶庫

神と英雄の物語

▲文學者の寶典＝畫家の畫題＝說敎者の材料＝家庭の好讀物也
▲近代上代を通じ西洋文藝を味ふには神話知識が根本的必要也
▲此書は希臘羅馬の神話を初め埃及北歐印度西藏の傳說を含む
▲原書はヴアージルオヴヰツド以下一千餘種古典硏究の產物也
▲小說よりも面白く書かれたる人間の想像力の無限大を示せり
▲譯者は今日迄此翻譯の如き興味を以て勞作を續けたる事無し
▲挿入五十個の寫眞は二千年前の彫刻を初め悉く古藝術の珍品

東京市神田區南神保町十六　尙文堂書店　電話本局四四五二　振替東京一九三四四

Digitized by Google

御婦人向文房具

伊東屋の階上には進歩的な智識的な
御婦人向文房具が澤山陳列有之候
御高覧願はしく御待受申上候

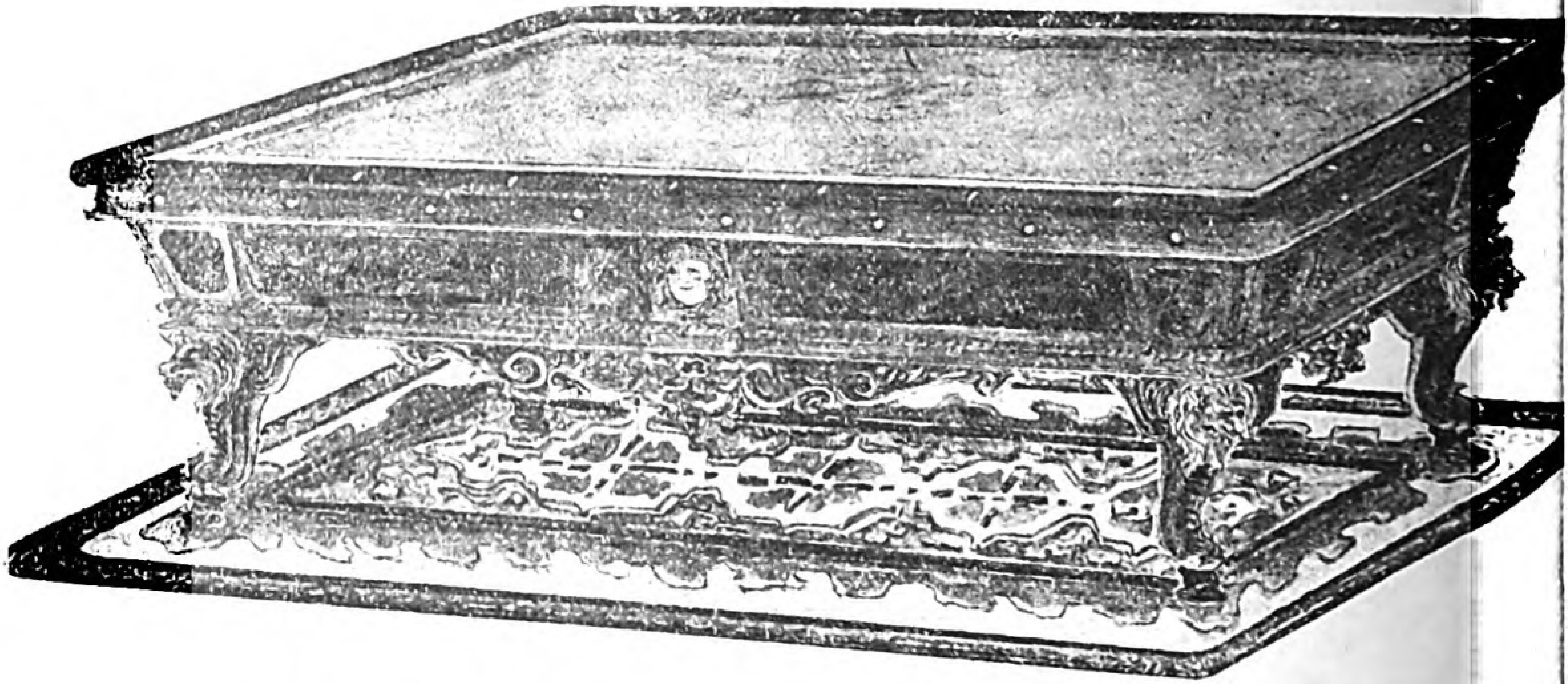
銀座
伊東屋

電話京橋三二九
七九六
振替口座五二一

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

最新式玉突臺



玉突臺附屬品一式

御一報次第「カタログ」送呈仕候

製造販賣所

東京市京橋區鎗屋町一番地

中村商店玉突臺販賣所

電話京橋一九六七番

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

賜有功賞牌

最も優ぐれたる
御婦人用髪油ハ

か清ハ
寿美礼

本舗
東京市
人形町通堺町
井筒屋香油店

昭和45年2月28日発行　【第8回配本】

青 鞜 第 4 巻　3月号

編 著 者　平塚 らいてう
発 行 者　藤 原 正 人
発 行 所　(株)明 治 文 献
印　　刷　江 明 印 刷
製　　本　(株)三 高 製 本

【分売はいたしません】　定価 4,500円

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ASN
PER
PL
756
S45
V.4
no. 3

University of Colorado at Boulder
U18304 6746393

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER